



日本地球惑星科学連合ニュースレター Vol. **21**
May, 2025 No. **2**

NEWS

日本地球惑星科学連合2025年大会のご案内	1
大会の概要・参加登録・参加方法など	1
各種イベント	5
開催セッション一覧	11
プログラム一覧	14
学術会議だより	16

TOPICS

X線CT スキャンが拓く 古脊椎動物学の新時代	17
----------------------------	----

BOOK REVIEW

深海問答	19
------	----

INFORMATION

	20
--	----

JGL

Japan Geoscience Letters

2025 No. **2**

NEWS

日本地球惑星科学連合 2025 年大会のご案内

大会の概要

2025年大会は現地とオンラインのハイブリッドで開催します。

開催日時

2025年5月25日(日)～5月30日(金)

※一部プログラムを5月24日(土)に開催します

会場

現地会場：幕張メッセ国際会議場、国際展示場ホール7・8

(千葉県千葉市美浜区中瀬2-1)

オンライン会場：Confit システム (以下 Confit)

https://confit.atlas.jp/guide/event/jpgu2025/participant_login

発表方法

口頭発表

現地会場及び Zoom での会場中継。

現地とオンラインどちらでも自由に選択可能です。

ポスター発表

オンラインポスター

オンライン上でポスターを公開します。

オンラインコアタイムはありません。

ポスターフラッシュトークはありません。

現地とオンラインどちらでも自由に選択可能です。

現地ポスター発表

現地会場掲示。

現地参加のみ、オンラインでの参加手段は用意しておりません。

大会参加準備マニュアル

https://www.jpgu.org/meeting_j2025/files/preparation_manual_j.pdf

タイムテーブル

AM1: 09:00～10:30

AM2: 10:45～12:15

Lunchtime: 12:15～13:45

PM1: 13:45～15:15

PM2: 15:30～17:00

PM3: 17:15～19:15

※口頭発表は原則 AM1, AM2, PM1, PM2 中で行います。

※PM3は現地ポスターコアタイムです。

大会言語

セッションで使用する言語は、各セッションタイトルの前についている言語記号 (E または J) をご確認ください。

E: 発表資料・発表言語: 英語

J: 発表資料・発表言語: 英語または日本語 (任意)

参加登録

大会にご参加いただくためには参加登録が必要です。

参加登録方法

会員画面にログインし、参加登録と参加費の決済を行ってください。参加には必ず JpGU の ID が必要です (パブリックセッションの聴講を除く)。

会員ログイン URL: <https://www.jpgu-member.org/jpgu/ja/>

※新規の ID もこの URL から取得できますが、正会員と大会参加 ID で参加費が大きく異なりますので必ず事前に違いをご確認ください。

ID 取得後に大会参加 ID から正会員に ID を変更するはできません。

参考: https://www.jpgu.org/meeting_j2025/about.php#about_registration_fee

参加登録締切

5月15日(木) 23:59 JST で一度締め切ります。

※5月16日からオンライン大会参加システム Confit にログイン制限がかかり、参加登録済の方しか閲覧できなくなるため、5月15日までに参加登録がお済の方にはお待たせすることなく Confit ヘログインができるようにいたします。

※発表者の参加登録はすでに締め切っております。

5月16日以降の参加登録については、登録日の翌日9:00から Confit ヘログインができるようになります。発表者や座長、コンピーナであっても、登録日当日のログインはできませんのでご注意ください。

参加登録費

JpGU 正会員, AGU 会員, AOGS 会員, EGU 会員: 会員割引料金
大会参加 ID: 非会員料金

	会員割引料金	非会員料金 ※割引なし
一般	¥25,850	¥36,850
小中高教員	無料	¥17,600
大学院生	¥12,100	¥17,600
シニア (正会員のみ)	¥12,100	—
学部生以下	無料	

2025 年度大会参加 ID (25 から始まる ID) をお持ちの方へ

大会参加 ID をお持ちの方へは会員割引料金は適用されません。非会員料金となりますのでご注意ください。

シニア正会員の方へ

シニア料金を適用するには身分がシニアである必要があります。身分は自動では切り替わりませんので、ご自身で会員画面から身分を変更をした後に参加登録を行ってください。

中高生及び大学生の方へ

大学学部生以下の方は無料で全てのセッションにご参加いただけます。

JpGU の ID (年会費不要、準会員 ID / 大会参加 ID 問わず) を取得して参加登録 (無料) を行ってください。

JpGU の ID はこちらの URL から取得できます。

<https://www.jpгу-member.org/jpgu/ja/>

小中高教員及び学部生以下の方の身分証明について

お申込み後に、教員であることを証明できるもの (保険証などの所属情報を確認できるもの) / 学生証の提出が必要となりますのでご了承ください。

キャンセルポリシー

参加の有無に関わらず、決済された登録料を返金することはできませんので予めご了承ください。

説

明会動画及び大会マニュアル

5 月 8 日に開催したオンライン説明会の様子と、最新の参加者向けマニュアルをこちらのページで公開しています。

ぜひ事前にご確認ください。

https://www.jpгу.org/meeting_j2025/manual_archive.html

パ

ブリックデーについて

5 月 25 日 (日) はパブリックデーとし、一般の方に無料でご参加いただけるパブリックセッションを 11 件企画しております。セッションの詳細やプログラムは P7 にてご紹介しています。

O-01 地球・惑星科学トップセミナー

O-02 地球科学とアートの相互作用

O-03 これだけは知っておきたい海洋プラスチック汚染

O-04 「あなたは自然災害から生き残れますか? 学校での学びで!」

O-05 変動帯の地質と文化

O-06 新島誕生 11 年: ダイナミックな変化を続ける西之島の現在と未来

O-07 国連海洋科学の 10 年: SDG 目標 14 の推進に向けた今後の展望

O-08 キッチン地球科学: 多様な到達点を生む実験

O-09 ジオパークとサステナビリティ (口頭招待講演)

O-10 阪神・淡路大震災から 30 年—教訓と進展

O-11 高校生ポスター発表

パブリックセッションのみへの参加方法

現地来場の方

下記 URL から必要情報を登録し、入場用 e チケットを発行して、会場へご持参ください。

※ e - チケットをご提示 (画面表示も可) いただけない場合、会場に入場できません。現地に参加登録窓口はありませんので、ご来場前に登録をお済ませください。

<https://www.jpгу-member.org/meeting/public/>

入場 (受付) 開始時間 8:00

講演会場開場時間 8:30

ご希望のセッションに間に合うようにお越しください。

セッション開始後も会場内は入退室自由ですが他の方のご迷惑にならないようにご移動ください。

口頭発表へのオンライン参加をご希望の方

下記 URL から申込フォームにアクセスし、メールアドレスを入力してください。オンライン会場となる Zoom の入室に必要な URL とパスワードをお送りします。

<https://business.form-mailer.jp/fms/593f8663144497>

O-11 高校生セッションに参加される方

発表登録済の方は連絡責任者 (教員等) の指示に従ってください。連絡責任者がまとめて参加登録を行います。

保護者の方や個人での聴講希望の方はパブリックセッション参加の手続きを行ってください。

発表をしない学校からの、学校や部活単位での参加については、高校生セッションお問合せフォームからご相談ください。

https://www.jpгу.org/highschool_session/2025/contact.html

パブリックセッションのポスターをオンラインで閲覧したい方

Confit システムにログインするための ID を発行しますので、下記 URL からフォームにアクセスし、必要事項を入力してください。

パブリック参加の方がログインできるのは 5 月 25 日 (日) の一日のみです。

<https://business.form-mailer.jp/fms/6108b4b4144375>

オンラインポスターが掲示されているセッション:

O-02 地球科学とアートの相互作用

O-03 これだけは知っておきたい海洋プラスチック汚染

O-04 「あなたは自然災害から生き残れますか? 学校での学びで!」

O-05 変動帯の地質と文化

O-08 キッチン地球科学: 多様な到達点を生む実験

O-11 高校生ポスター発表

参

加方法

現地参加とオンライン参加はどちらも自由にお選びいただけます。

現地参加

参加登録をお済ませいただき、e チケットをご持参の上、直接現地までご来場ください。

オンライン参加

オンライン会場 Confit にログインしてください。

現地参加を予定されている方も、Confit へログインできるようにしておいてください。Confit に掲示されているポスター・発表資料の閲覧、口頭講演会場が定員になっていた場合にオンラインから Zoom への入室、などに必要となります。

※ 2024 年大会では必須であった、口頭発表時の Confit ログインは、2025 年大会では不要となりました。

現地参加・オンライン参加共通**Confit へのログイン方法**

5月16日(金)より、予稿 PDF が Confit 上で公開され、参加登録を行った方が Confit にログインできるようになります(それ以前はどなたでも閲覧できるため、ログイン画面は表示されません)。参加登録を行っていない方が予稿 PDF を閲覧する方法はありません(パブリックセッションを除く)。

< Confit にログインするための URL >

https://confit.atlas.jp/guide/event/jpgu2025/participant_login

< Confit にログインするための ID >

・参加登録をいただいた JpGU の会員 ID を使用してください。

< Confit にログインするためのパスワード >

・Confit へは JpGU の会員システムで使っているパスワードではログインできません。

初回アクセス時に「初回ログイン用パスワード設定」のリンクから、ご自身で Confit ログイン専用のパスワードを設定していただきます。

・設定済のパスワードの問い合わせもログイン画面の「パスワードを忘れた方はこちら」のリンクからご自身で行ってください。

※セキュリティ上、事務局からパスワードの通知を行うことやパスワードをお教えることはできませんので必ずご自身でパスワードの管理をお願いします。

< 推奨ブラウザ >

Firefox 最新版 / Safari 最新版 / Chrome 最新版 / Microsoft Edge 最新版推奨ブラウザ以外では、全ての機能でご利用できない場合があります。

お持ちでない場合は、それぞれ無料でダウンロードできますので、インストールまたはバージョンアップしてご利用ください。

セッションでの発表・聴講について**■口頭発表**

タイムテーブルに表示されているお部屋へ自由にご入室ください。入退室は自由です。オンラインは Confit の口頭発表のタイムテーブルから、各セッションの Zoom に入室してください。

発表者の方へ：

現地発表は会場に用意されたパソコン (Win11) または各自ご持参いただいたパソコンを Zoom に接続して行っていただきます。そのためには、配信用機器への HDMI 接続と、インターネットへの接続が必要になります。

・会場には有線の LAN ケーブルをご用意していますが、有線 LAN の接続にコネクタ等が必要な場合はご自身でご用意ください。ご自身のポケット Wi-Fi 等を使用していただいても構いません。会場の WiFi は発表への使用を想定していないため、利用はおすすめしません。

・会場には、配信用の HDMI ケーブルを用意しています。ご持参予定のパソコンに HDMI 端子が付いていない場合には、変換可能なプラグをご自身でご用意ください。会場での用意はありません。発表時にご持参いただいたパソコンが HDMI に繋がらない場合には、会場に備え付けのパソコンでの発表に切り替えていただきます。

・ご自身のパソコンで発表できない場合や、ご持参されない場合には、発表資料を USB メモリに入れてご用意ください。各会場に用意されている Windows11 のパソコン (PowerPoint 利用可) をお使いいただけます。

ご自身のパソコンでの発表を予定されている場合でも、発表時間までにインターネットや機器に繋がらないなどのトラブルが生じる場合に備えて、発表資料を USB メモリにいれてご持参いただくことを推奨します。

オンライン発表の場合は、Confit の口頭発表のタイムテーブルから、Zoom に入室して発表してください。

■ポスター発表

ポスター発表には、

1. 発表資料のオンライン掲示

2. 現地ポスター発表

の2つの発表機会があります。

[発表資料のオンライン掲示]

発表者が事前に発表資料を Confit にアップロードしますので、Confit にログイン後、各発表の詳細画面からご覧いただけます。

[現地ポスター発表]

会期中、指定された一日で現地ポスター発表が行われます。発表者がボード前に待機するコアタイムは PM3 の時間帯ですが、ポスターは終日 (発表者が掲示したときから PM3 の終了時間まで) 掲示されており、コアタイムに限らず自由にポスターをご覧いただけます。

発表者の方へ：**[発表資料の Confit へのアップロード] (必須)**

多くの方が閲覧できるよう、大会3日前の5月22日(木)までにアップロードすることをお勧めします(5月22日以降もアップロードや修正は可能です)。

[現地ポスター発表] (任意)

PM3 (コアタイム) 開始までに割り当てられたボードに持参したポスターを掲示しておいてください。PM3 はできる限りご自身のポスターの前にいるようにしてください。

ポスターボードの割当 (ご自身のポスター番地) はポスター会場に掲示しています。プッシュピンなどは会場にご用意しています。開催日は Confit のポスター発表のタイムテーブルなどでご確認ください。

現地へ来場できない場合でも、現地会場にポスターを掲示することは可能です。ご自身で掲示を依頼される方を手配されても (掲示する方も会場内に入るには参加登録が必要です)、JpGU へポスターを宅配便にてお送りいただいてもかまいません。詳細は大会ウェブページをご確認ください。

■発表ができなくなってしまったとき

投稿後にやむを得ない事情により発表ができなくなったとき、下記の条件をすべて満たす場合に限り、共著者の一人が代理発表者となることを認めます。

https://www.jpgu.org/meeting_j2025/presentation.php#unable_to_present

代理発表の手配ができない場合には、投稿者が直接コンピーナに発表ができない旨 (発表キャンセル) を連絡してください。

https://www.jpgu.org/meeting_j2025/presentation.php#cancellation
事務局に直接メール等でご連絡いただいても対応できませんのでご了承ください。

大会プログラム

発表日時等を大会プログラムにてご確認ください。

大会プログラム URL：

http://www.jpgu.org/meeting_j2025/sessionlist_jp/
参加登録の有無に関わらずどなたでもご覧いただけます。

オンライン参加システム Confit URL：

<https://confit.atlas.jp/guide/event/jpgu2025/top>
5月15日(木)まではどなたでもご覧いただけます。
予稿 PDF 公開後の5月16日(金)以降は参加登録者のみがログインできます。

**領収書**

領収書は JpGU 会員サイトからご自身で発行できます。宛名等の書き換えの必要がある方は事務局にお問い合わせください。

参加形態（現地／オンライン）の通知について

発表者が現地に来場するのか、オンラインで発表するのかは、座長、コンピーナ、また聴講者にとっても重要な情報となります。Confit 上から、マッチングフラグ機能を使い、発表日に限らず各日毎に「現地来場予定」「オンライン参加予定」「不参加」を登録できますので、事前のご登録にご協力ください。

登録方法：

Confit にログイン後、「マイメニュー／マイプロフィール」を開き、右上にある「編集」ボタンから登録できます。

参加のルールや規定

皆様に安心して大会へご参加いただけるよう、発表資料の取り扱いに関するポリシーを設けております。ぜひ一読いただいた上で大会へご参加ください。

オンライン発表資料取扱ポリシー：

http://www.jpgu.org/meeting_j2025/rule/pre_material_policy.html

現地会場のご案内

会場に入るためには、名札を下げてください必要があります。名札は初来場時に幕張メッセ国際会議場 1F にて発券します。2日目以降は発券済みの名札を必ずご持参ください。名札を付けていない方の入場は各入口でお断りしております。

名札発券可能時間

期間中、毎日 8:00 ～ 18:30

※ 5 月 24 日（土）は 17:00 ～ 19:00 に限り翌日からの大会の名札発券を受け付けます。初日の朝は混みあいますので、前日に幕張に到着の方はぜひご活用ください。

開場時間

国際会議場 1F 入り口 8:00 ～ 19:45

国際会議場 2F 連絡通路 8:30 ～ 19:30

国際展示場 8:30 ～ 19:30

※上記時間以外は施錠します。

現地受付について

現地に受付スタッフはおりません。現地での参加登録はできませんので、必ずご来場前に全ての手続き（来場前日までの参加登録及び決済、身分の変更等）をオンライン上で済ませてください。手続きを完了させずに現地にご来場いただいても、身分の変更や名札の紛失等も全てオンラインでの対応となりますので、ご入場までにお時間をいただきます。（現地のスタッフに直接お声がけいただいても業務が異なるため対応できず、オンライン手続きをご案内できるのみとなります）スムーズな入場のために、入場用 e- チケットのご持参を必ずお願いいたします（スマートフォンやパソコン上での表示も可能です）。

会場内での飲食について

ランチタイムスペシャルレクチャーを除き、講演・セッション中の水分補給以外の飲食はご遠慮ください。

国際会議場内で開かれる会合では、あらかじめご注文いただいたお弁当を召し上がっていただくことは可能です。

展示場の休憩エリアは持ち込みも含め飲食可能です。また、ランチ販売も行います。

会場及び参加者サービス

詳しくは大会ウェブページにてご確認ください。

https://www.jpgu.org/meeting_j2025/service.php

・Wi-Fi（無料）

大会会場内（会議場、展示場）にて、Wi-Fi が使用できます。回線数に限りがありますので、繋がりにくい場合もあります。SSID、PW については会場内に掲示します。

・ポケット Wi-Fi レンタル（有料）

ご自身で専用の回線をご利用されたい場合には、レンタルのポケット Wi-Fi（Wi-FiBOX）をご紹介します。モバイルバッテリーとしてもご利用いただけます。

最寄りの貸し出しステーションは、アパホテル東京ベイ幕張 1F です。会場内配付のチラシを経由していただくと、正規料金から 5% 割引でご利用いただけます。

4G-LTE 500GB / 日 440 円～完全無制限（規制無し）/ 日 1390 円まで各種プラン有り。

・クローク

幕張メッセ国際会議場 1F にクロークをご用意します。

開設時間は 8:00 ～ 19:15 です。（時間外のご利用はできません）

・ランチ軽食等について

国際展示場ホール 8 にてキッチンカーによるお弁当販売を行います。

・コーヒーサービス

国際展示場ホール 8 にてコーヒーを提供しています。（PM3 開始前まで）

・幕張周辺クーポン

大会参加者が幕張駅周辺の飲食店でサービスを受けられるクーポンをご用意いたします。ぜひご活用ください。

・保育支援

会場内に保育ルームを開設します。また、パブリックデーに限り学童の預かりも行います。

詳しい手続き方法は大会ウェブページにてご確認ください。

・Prayer Room

幕張メッセ国際会議場 2F にてご利用します。必要な方がいらっしゃいましたらご紹介ください。（214 号室：女性用、215 号室：男性用）

・ドネーションラウンジ

ドネーションにご協力いただいた方へドリンクと休憩場所の提供を行います。

・Open Science and Data Help Desk

オープンサイエンス全般、研究データマネジメント（RDM）、データ共有（出版）、OA 出版などの学術情報管理・提供に関する、大会参加者からの質問に答える、ヘルプデスクを設置します。

・フォトスポット

会場内にフォトスポットを用意しております。参加の記念にご活用ください。

会期中のお問合わせ

会期中のお問合わせは大会ウェブページよりご確認ください。

各種お問合わせ先情報：

http://www.jpgu.org/meeting_j2025/contact.php

※現地入場に関するトラブルも上記ページからご連絡ください。

セッションコンピーナからのお知らせ

発表内容の変更等のコンピーナから参加者の皆様へのお知らせを、大会ウェブページ上の「セッションからのお知らせ」にて公開します。

参加予定のセッションの情報が公開されていないかご確認ください。
発表者の方への連絡についてはコンピーナから発表者に連絡をするためのものと、参加者・発表者がコンピーナに問合せをするための2種類のメーリングリストをご用意しています。詳しい使い方などは大会マニュアルなどをご参照ください。

表彰式

日時：5月28日（水）17:15～18:30

会場：国際展示場ホール7 ステージエリア

参加方法：大会参加者はどなたでもご参加いただけます。

- ・現地参加：会場に直接おこしください。
- ・オンライン参加：大会サイト（Confit）のタイムテーブルにある表彰式（5/16頃掲載予定）から Zoom にご参加下さい。

2025年度公益社団法人日本地球惑星科学連合フェロー
第6回地球惑星科学振興西田賞

2025年度公益社団法人日本地球惑星科学連合国際貢献賞

Introduction of The Asahiko Taira International Scientific Ocean
Drilling Research Prize recipient

懇親会

皆さんが気軽に参加できるように、展示ホールで開催します。飲み物や軽いフードを用意してあります。オープンな空間で、業界の垣根を超えた交流ができる懇親会を企画しています。年に1度、同世代や異分野間の交流はいかがですか？

日時：5月28日（水）19:30～21:00

会場：国際展示場ホール7 ステージエリア

参加方法：会員ログイン画面から参加申込と参加費の決済をしてください。

事前参加費：1,100円（税込）

当日参加費：2,200円（税込）

※当日参加であっても現地決済は行いません。会員画面からのお支払いをお願いします。

ランチタイムスペシャルレクチャー

ワールドクラスの研究者が研究分野を越えて学生・若手研究者におくる地球惑星科学の特別講義シリーズ『スペシャルレクチャー』をハイブリッド期間中の昼休みに開催します。

日時：2025年5月25日（日）～29日（木）13:00～13:40

開催場所：展示場ホール ステージエリア

参加方法：大会参加者はどなたでもご参加いただけます。

- ・現地参加：会場に直接おこしください。昼食をとりながらもご聴講いただけます（会場にはテーブルのご用意はありません）。
- ・オンライン参加：大会サイト（Confit）のタイムテーブルにあるランチタイムスペシャルレクチャー（5/16頃掲載予定）から Zoom にご参加下さい。

講演者：5つのセッションから1名ずつ登壇します。

<講演予定>

5月25日（日）萩野恭子（高知大学海洋コア国際研究所）／地球生命科学

5月26日（月）横山竜宏（京都大学生存圏研究所）／宇宙惑星科学

5月27日（火）北場育子（立命館大学古気候学研究センター）／地球人間圏科学

5月28日（水）堀之内 武（北海道大学地球環境科学研究院）／大気水圏科学

5月29日（木）菅沼悠介（国立極地研究所）／固体地球科学

講演内容等は下記 URL をご覧ください。

https://www.jpгу.org/meeting_j2025/event.php#lsl

三宅賞受賞者講演会

2022年度に三宅賞を受賞された土山明氏による記念講演を行います。

日時：5月28日（水）12:20～13:00

会場：国際展示場ホール7 ステージエリア

参加方法：大会参加者はどなたでもご参加いただけます。

- ・現地参加：会場に直接おこしください。
- ・オンライン参加：大会サイト（Confit）のタイムテーブルにある三宅賞受賞者講演会（5/16頃掲載予定）から Zoom にご参加下さい。

中高生・大学生向けイベント

詳細や参加方法は必ず大会 HP からご確認ください。

https://www.jpгу.org/meeting_j2025/event.php

◎ハイパーウォール講演会

今年は JAXA と JAMSTEC がハイパーウォールを使って講演会を行います。

・JAXA 企画

次世代の宇宙科学を担う中高生向けに、JAXA で最前線に立つ研究者が惑星探査や太陽圏、地球観測などの最新の研究状況をわかりやすくお伝えします。また講演後の質問時間や交流会では研究者に直接質問できます。

5月25日（日）16:45～18:45＋交流会

5月29日（木）16:00～18:00＋交流会

スペシャルゲストに宇宙系 Vtuber も登壇し、講演会を盛り上げます！

※要参加申込

中学生・高校生を対象としていますが、それ以外の方も歓迎します。

・JAMSTEC 企画

今年は JAMSTEC もハイパーウォールを使って中高生のみなさんに最新の研究成果をお届けします。

5月25日（日）15:30～16:30 日本列島ご当地自慢 地学の甲子園大会！

5月26日（月）16:00～18:00 「数理科学」DAY

5月27日（火）16:00～18:00 「地球・生命」DAY

5月28日（水）16:00～18:00 「海洋」DAY

※質問は会場からもオンラインのチャットからも受け付けます。

※要参加申込

ハイパーウォールイベントについての詳細・申込：

https://www.jpгу.org/meeting_j2025/event.php#HW

◎地球惑星科学系のキャンパスライフとキャリアパス

日時：5月25日 終日

会場：展示場ポスターエリア付近特設ブース

JpGU に参加している先輩たちはいったいどんな毎日を過ごしているのでしょうか？ JpGU の中には、地球、宇宙、海など、地球惑星を取り巻くエリアを対象として研究を続けている学生・研究者がたくさんいます。彼らはいつもどんなところで研究や実験をしているのでしょうか？何時に起きて、どんなご飯を食べているの？大学・大学院ではどんな授業を受けられるの？野外調査ってどんな感じ？自分にもできるかな？いつもいろんなところに行けて楽しそう！そんな彼らの生活を覗いてみたいと思いませんか？

中高・大学生だけでなく、教職員・保護者の皆様、博士の人材育成や、研究および働く仲間を増やしたい方々も気軽にお越しください。

◎一家に一枚ポスター配布

日時：5月25日（日） 終日

会場：展示場ポスターエリア付近特設ブース

JpGU では、大会期間中以外も中高生や一般の方に向けたイベント情報などを「日本地球惑星科学連合からのお知らせ」として、メーリングリストで配信しています。

本イベントでは、毎号編集配信を行っているメンバーが、メーリングリストの登録者へ記念品（クリアファイルとポスター）をお渡しします。登録者の方は、ぜひメンバーに会いに来てください。もちろん、現地での新規登録も歓迎します。

日本地球惑星科学連合からのお知らせ ML についてはこちらのページをご参照ください。

<https://www.jpгу.org/for-students/>

◎ NASA Earth-to-space イベントを通した中高生による研究講演会

NASA の Earth-to-space イベントの報告と、それに参加した中高生の講演を行います。また、各発表への研究者からの講評も行います。一般参加は聴講のみとなります。

日時：5月29日(木) 14:00～16:00

会場：展示場ハイパーウォールエリア及びオンライン

展示イベントークイズラリー

各出展オンラインブースを訪れて、クイズにご参加ください。大会後、正答率の高い方から抽選で景品が当たります。

日時：大会期間中全日

参加方法：特に参加申請は必要ありません。大会期間中はいつでも「回答フォーム」に回答・希望の景品を入力の上、ご応募ください。

その他各種イベント

詳細は大会 HP でご確認ください。

http://www.jpгу.org/meeting_j2025/event.php

(以下、●ハイブリッド／○現地のみ)

5月25日(日)

● GeoSciAI2025 表彰式

場所：展示場特設会場 1

時間：ランチタイム

○ 宇宙惑星科学セクション・ランチョン

場所：コンベンションホール A

時間：ランチタイム

5月26日(月)

○ International Mixer Luncheon

場所：ホテルニューオータニ ラピス

時間：ランチタイム

要申込、有料

○ [学部生・大学院生・ポスドク向け] 就活支援イベント

場所：展示場ハイパーウォールエリア

時間：ランチタイム

○ GeoFut25

場所：FIFA 夢フィールド

時間：19:00～21:00

要申込、有料

5月27日(火)

○ 浮世絵の紹介とナマズ絵に見られる震災の描像

場所：ハイパーウォールエリア(予定)

時間：ランチタイム

○ [学部生・大学院生・ポスドク向け] 就活支援イベント

場所：ポスターエリア付近

時間：ランチタイム

5月28日(水)

○ ジオラン・ウォーク

場所：県立幕張海浜公園(Gブロック)

時間：ランチタイム

要申込、有料

■ スーパーレッスン

新たな分野に挑戦する学生からシニアの方までを対象に、今年もスーパーレッスンを開講します。

参加方法等は大会イベントページからご確認ください。

http://www.jpгу.org/meeting_j2025/event.php

・ 深層学習による地震波形データ解析

5月25日(日) PM2 (国際会議場 104)

現地のみ

・ ダジック・アースを学校やアウトリーチで使ってみませんか

5月25日(日) PM3 (展示場 特設会場 3)

現地のみ

・ 小型分光器で身近なものを計測

5月26日(月) PM1 (国際会議場 103) ※有料

現地のみ

・ 超高層大気データの解析演習

5月29日(木) PM2

オンラインのみ

■ 巡検

大会参加者に向けた6件の巡検を企画しています。募集は大会ウェブページ上で行います。参加費やコース詳細はウェブページをご参照ください。

申込締切：5月15日(木) ※ JAXA 見学コース(5月7日締切)を除く各コースの詳細及び申込み

http://www.jpгу.org/meeting_j2025/fieldtrip.php

日本橋コース「都心の石材 Viewing!」

【開催日】5月26日(月)

都心の建築物には貴重で興味深い石材が多く使われています。

このツアーでは、『東京「街角」地質学』の著者・西本昌司先生に解説していただきながら、日本橋周辺の歴史的建造物に使われている石材を見つつ散策をします。

【案内人】西本昌司(愛知大学)・小口千明(埼玉大学)

【参加費】2,000円

JAXA 見学コース「JAXA 宇宙科学研究所 見学ツアー」

【開催日】5月29日(木)

日本の宇宙開発の中心である JAXA 宇宙科学研究所を見学するツアーです。

JAXA 相模原キャンパスにて宇宙科学技術の先端設備を訪れ、最新の宇宙科学の成果に触れることができます。

【参加費】9,500円

秩父・長瀨コース「日本地質学発祥の地、秩父の変成岩と新第三系」

【開催日】5月29日(木)

埼玉県の秩父地域は古くから研究が行われ、「日本地質学発祥の地」とも言われる様々な岩石や地層が観察できるエリアです。

長瀨の様々な種類の山波川変成岩や中新世に広がっていた海、古秩父湾の誕生から消滅までが観察できる、古秩父湾堆積層とパレオパラドキシアを中心とした化石などを見学します。

【案内人】北川博道(自然の博物館)

【参加費】16,800円

房総コース「沈み込み帯浅部から中深部変形構造追跡」

【開催日】5月31日(土)～6月1日(日)

房総半島は、世界でも最も若い付加体・被覆層のシステムを陸上で見学できるエリアです。

ここでは、プレート沈み込みによって形成される付加体をごく浅部(1 km 以浅)からやや深部(3～4 km)に追跡するとともに、多くの海底地すべりも見学します。

【案内人】山本由弦(神戸大学)・宇都宮正志(産業技術総合研究所)

【参加費】32,500円

箱根・富士コース「日本の代表的観光地の地質学的・火山学的背景」

【開催日】5月31日(土)～6月1日(日)

日本を代表する温泉地・箱根と、日本の象徴である富士山を訪れます。箱根では、2015年の噴火の噴出中心を探訪し、その噴火過程や噴火の際に取られた防災対応について議論します。

富士山では、溶岩洞窟や山腹の露頭を訪れ、噴火の歴史や将来の噴火への備えについて議論します。

【案内人】 萬年一剛（温泉地学研究所）・渡部将太（山梨県富士山科学研究所）

【参加費】 47,000円

北海道東部根室帯コース「古千島弧の堆積層と火成岩：根室ー北海道東部に分布する白亜系～古第三系」

【開催日】 5月31日（土）～6月2日（月）

道東の美しい湿原や海岸段丘と海食崖の眺望を楽しみつつ、白亜紀から古第三紀に至るまでに堆積した多様な地層と火成岩を見学します。大規模な露頭で、さまざまな堆積構造や枕状溶岩・岩脈の構造を詳細に観察することができます。

【案内人】 成瀬元（京都大学）、平野直人（東北大学）

【参加費】 23,000円

一般市民向け公開プログラム「パブリックセッション」

パブリックセッションが開催されるパブリックデーは5月25日（日）です。パブリックセッションはどなたでも無料でご参加いただけます。内容は一般市民の方を対象としています。

参加方法はP2の「パブリックデーについて」をご参照ください。

O-01 地球・惑星科学トップセミナー

コンピーナ：関根 康人、岡本 敦、後藤 和久、原 辰彦

講演内容

揺れない地震の話（井出 哲）

海洋プラスチック研究からみた海洋科学の魅力（磯辺 篤彦）

O-02 地球科学とアートの相互作用

コンピーナ：荒木 優希、豊福 高志、長井 裕季子

本セッションは、アートの哲学的な視点を取り入れる科学の発展的試みです。地球科学の研究者と、幅広い分野のアーティストが協働し、新たな課題を探究し、その成果を多様な形で表現する力を育みます。実際のコラボレーション事例を紹介しながら、地球科学とアートの相互作用によって生まれる新たな知見を学び、学問のイノベーションの共創を目指します。

講演内容

ミクロのアーティスト「珪藻」の機能美とその不思議（佐藤 晋也）

事例紹介：Foraged Colors 色をつくる、ともに生きる（吉田 勝信）

構造色が生むスコリアの虹色（松本 恵子）

地質学と美術の臨界を探索 展示手法の観点から（細萱 航平）

地球科学とアートの相互作用：進化古生物学者が科学の魅力を広げる新たな試み（千徳 明日香）

（ポスター）

・見えないものを見せる「サイエンスフォト」ー浮遊性有孔虫にみる科学と芸術の相互作用ー（高木 悠花）

・実物資料展示 Foraged Colors 色をつくる、ともに生きる（吉田 勝信）

・科学コミュニケーションとアートが接近するときー科学広報資材制作の現場からー（椿 玲未）

・地球科学を「芸術」する：実践と悩ましさ（井出 和希）

・マグネシウムイオンの拡散を描くーアート思考による新たな結晶成長観察手法の探究ー（荒木 優希）

・研究を描くー葛藤する画家のオートエスノグラフィーー（石田 翔太）

・体験型ビジュアルコミュニケーション：地球科学とアートの再統合に向けた実践的コメントマッピングの試み（長井 裕季子）

・体験型ビジュアルコミュニケーション：地球科学とアートの再統合に向けた実践的コメントマッピングの試み2（豊福 高志）

・体験型ビジュアルコミュニケーション：地球科学とアートの再統合に向けた実践的コメントマッピングの試み3（荒木 優希）

・体験型ビジュアルコミュニケーション：地球科学とアートの再統合に向けた実践的コメントマッピングの試み4（石田 翔太）

O-03 これだけは知っておきたい海洋プラスチック汚染

コンピーナ：中井 仁、磯辺 篤彦、加古 真一郎、日向 博文

かつては美しい景観を誇っていた日本の海岸線の多くが、日々漂着する廃棄プラスチックによって汚染されています。それは、海岸の景観を損ねるだけでなく、誤って食べてしまう海鳥やウミガメの死因にもなっています。また、汚染は沿岸部だけではなく、陸地から遠く離れた海域にまで及んでいることが分かっています。本セッションでは、海洋プラスチック汚染の現状と、海洋における廃棄プラスチックの挙動についての最新の知見を聞きます。

講演内容

海洋プラスチック汚染の現在と将来（磯辺 篤彦）

リモートセンシングと画像解析 AI による海洋プラスチックごみ汚染の可視化（加古 真一郎）

日本の海岸利用者が年間に出すプラスチックごみの量は？（日向 博文）

地球の測り方

宇宙から見る「水の惑星」のすがた
青木陽介・著

A5・240頁・定価：2,860円（税込）

ISBN 978-4-06-538605-7

地球は本当はどんな形なのか？

宇宙から眺める青い惑星の姿を「測る」ことで、プレートテクトニクスから気候変動まで、その奥深いメカニズムが見えてくる。古くて新しい学問「測地学」から俯瞰する、魅力的な地球科学の世界へようこそ！



新刊

地震学

井出 哲・著

A5・416頁・定価：6,490円（税込）

ISBN 978-4-06-535639-5

世界的研究者が最新研究にもとづいて、多様で複雑な現象（地震）を語り尽くす。スロー地震から巨大地震まで、また、地震動（揺れ）だけでなく、震源で起こる岩石の破壊現象、確率的な過程としての地震活動もカバーする。これが、地震学の最前線！



重版
出来

東京都文京区音羽 2-12-21
<https://www.kspub.co.jp/>



KODANSHA



編集 03(3235)3701
販売 03(5395)5817

O-04 「あなたは自然災害から生き残れますか？学校での学びで！」 コンピーナ：根本 泰雄，久利 美和，高橋 裕，山本 隆太

中高生，大学生のみなさん！学校での防災学習で，本当にあなたや家族の命を守れますか？学校ですらにどんな“まなび”が必要でしょうか？どう学校の“まなび”を変えればいいのでしょうか？今回は，防災・減災について，学校での“まなび”と，実社会で必要とされる生きる力との関係を，一般市民であるみなさんと共に考えたいと思います。生徒・学生のみならず，防災・減災を学ぶ立場からの積極的な発言をお願いします。

講演内容

防災教育の新しいあたり前を創ろう！～希『望』を持って『最』高の行動を考える～（京 百合子）

長野県等における子供たちへの防災教育の事例（南沢 修）

協働でつくる学びの場とその先にあるもの（小山 真紀）

（ポスター）

- ・高校生のための噴火サイババルガイド—地理総合，地学基礎で学んでほしいこと（林 信太郎）
- ・学校の「理科」で“まなぶ”震災の内容から再度考えよう—2024，2025改訂版教科書をのぞいてみたら—（根本 泰雄）
- ・水害防災（水防災）を学ぶ 地理と地学，社会と自然（山本 隆太）
- ・あなたは学校教育および地理総合の授業で自然災害から生き残れますか？学校での学びで！（高橋 裕）

O-05 変動帯の地質と文化

コンピーナ：鈴木 寿志，川村 教一，先山 徹

講演内容

讃岐ジオパーク構想の食と地質資源（長谷川 修一）

「樹氷マイスター」の誕生と「樹氷の会」の活動（土門 直子）

地域資源の再発見，コミュニティ主体のアプローチの評価 —戸川砥を例として—（田口 公則）

人間は「大地」を離れては生きていられない：鈴木大拙の宗教哲学と地質学の接点（水野 友晴）

京都はなぜ都になれたのか（藤岡 換太郎）

戦後の地学教育の変遷—文化地質学と身の回りの地学—（久田 健一郎）
教育実践から見た地質と災害文化—自然災害との向き合い方をどう教えるか？—（中島 健）

（ポスター）

- ・変動帯と安定大陸の地質と文化（鈴木 寿志）
- ・日本列島の自然石文化と岩石の信仰（吉川 宗明）
- ・浅間山の鬼伝説にみる火山の影響（古川 広樹）
- ・熊野の霊場と地質（後 誠介）
- ・溶岩の岩壁を拝所とする山岳霊場の例：求菩提山修験（川村 教一）
- ・旧高島駅で観察する高島石（大友 幸子）
- ・古墳時代から中世にかけて広域的に流通した近畿地方産石材の地質背景（先山 徹）
- ・日本風景街道「奥能登絶景海道」の地形地質的特徴と地域資源の活用（森野 善広）

O-06 新島誕生11年：ダイナミックな変化を続ける西之島の現在と未来

コンピーナ：吉田 健太，多田 訓子，森 英章

本州から800km以上離れた小笠原諸島の西之島で，大規模なマグマ流出を伴う噴火活動が始まった2013年から10年以上の時が経ちました。吹き出すマグマにより作られた新しい大地では，生物がゼロから営みをつむいでいく様子が観察されています。また，マグマの化学組成から火山活動の変化の実態もわかりはじめてきました。このセッションでは西之島の現在の姿を紹介し，今後の可能性について考えていきます。

講演内容

西之島が成長し続ける理由を物理学的観測から解明できるか？（多田 訓子）
海洋島では捕食者が一次遷移を始動させる：西之島における海鳥駆動型生態系の誕生（川上 和人）

火山噴火による西之島の植物の完全な消失と新たな侵入について（上條 隆志）

世界遺産としての小笠原諸島：父島と西之島の地質（田村 芳彦）

O-07 国連海洋科学の10年：SDG目標14の推進に向けた今後の展望

コンピーナ：原田 尚美，藤井 陽介，斎藤 実篤，堀井 元章

「国連海洋科学の10年（UNDOS）」は，2030年までにSDG目標14「海の豊かさを守ろう」の達成を目指し，世界中で海洋科学を推進する取り組みです。UNDOSの認知向上を図るため，専門家が最新の科学プログラム，環境保護，海洋教育，次世代育成などに関する取り組みを紹介します。講演後は，会場の皆さんとともに，今後の展望について意見を交わしたいと思いますので，多くのご参加をお待ちしています。

講演内容

国連海洋科学の10年—そのゴールに向けて—（道田 豊）

予測における海洋観測の重要性を明らかにする国連海洋科学の10年プロジェクトSynObsについて（藤井 陽介）

国際黒潮研究プログラム—2nd Cooperative Study of Kuroshio and its adjacent region（CSK-2）（永野 憲）

Argoの現状と国連海洋科学の10年：OneArgoの実現に向けて（須賀 利雄）

海洋科学掘削を通じた地球・海のダイナミクスへのリテラシー促進（諸野 祐樹）

海洋科学推進のための10年プロジェクト—海洋生物ビッグデータ活用技術高度化（赤松 友成）

漁師の性別は海にとって重要？—地域水産業の持続可能性とジェンダーの関わりを科学する—（松原 花）

アンケート調査結果を踏まえた海洋若手専門家（ECOP）の活動とネットワーク拡大（田中 広太郎）

未知なる深海を開く—潜水船パイロットが見る世界—（飯島 さつき）

市民が海洋リテラシーを育むためにはどのような機会があればいいのか—学校教育や社会教育の場でおこなわれている取り組み事例の紹介—（今宮 則子）

総合討論（斎藤 実篤）

O-08 キッチン地球科学：多様な到達点を生む実験

コンピーナ：熊谷 一郎，鈴木 絢子，下川 倫子，栗田 敬

身近なものを使った実験で，火山噴火や火星のクレーター形成などの地球惑星科学現象を考えてみませんか？今年は，NHKドラマ『宙わたる教室』の原作者・伊与原新先生を始めドラマ制作関係者をお招きし，実験の映像化にまつわるお話しやその役割について議論します。さらに，厳選されたキッチン地球科学シェフによる講演や実験の実演もあります。手を動かして知的好奇心を刺激するキッチン地球科学実験を楽しんで下さい。

超小型火山地形ルートレスコーンのレシピ（野口 里奈）

Nonlinear oscillators in nonequilibrium conditions（北畑 裕之）

リーダー無しの協調行動—アリ社会の知恵を簡単な行動実験と数理モデルで紐解く（西森 拓）

ドラマ『宙わたる教室』がもたらしたもの（伊与原 新）

重力可変装置で火星重力をつくる—クレーター形成実験の比較—（久好 圭治）

テレビドラマ『宙わたる教室』におけるキッチン地球科学実験の映像化について（山下 和徳）

パネルディスカッション：テレビドラマ『宙わたる教室』におけるキッチン地球科学の役割（熊谷 一郎）

（ポスター）

- ・テレビドラマ『宙わたる教室』の中のキッチン地球科学実験：「みそ汁対流」実験のレシピ（山田 美幸）
- ・テレビドラマ『宙わたる教室』の中のキッチン地球科学実験：「すし酢と重曹の火山噴火」実験のレシピ（熊谷 一郎）
- ・キッチン地球科学レシピの再現（鈴木 絢子）
- ・おいしいコーヒーの入れ方と地盤液状化現象（栗田 敬）
- ・二酸化炭素センサーを用いた高校探究授業の試み 第3報 都立調

- 布北高校での実践 (城戸 文)
- ・ 模擬実験のビデオを制作する授業をやってみた (並木 敦子)
 - ・ Star-shaped pattern formed in experiments with the colloidal aggregated film (下川 倫子)
 - ・ 乾燥破壊の破断面に現れる羽毛パターン (坂口 英継)
 - ・ Morphological Change of Metal Dendrite by Addition of Surfactants: Analysis on Fractal Dimension, Branch Length and Branch Angle (中村 友哉)
 - ・ Analysis of thermal convection pattern in two immiscible liquid layers with an undeformed horizontal interface (中村 美月)
 - ・ アリの協調行動の研究 (白石 允梓)
 - ・ サメ肌の表面構造における気泡の付着性 (岩崎 光希)

O-09 ジオパークとサステナビリティ (口頭招待講演)

コンピーナ: 松原 典孝, 郡山 鈴夏, 榊山 匠, 福村 成哉

講演内容

自然災害に対するジオパークの考え方と世界の動向 (中田 節也)
令和6年能登半島地震と白山手取川ユネスコ世界ジオパーク—何ができて何ができなかったのか— (青木 賢人)
大地の成り立ちがもたらす恵みと災いとともに暮らすには?—四国西予ジオパークにおける防災減災の取り組み— (榊山 匠)
有珠山の麓で暮らしてきた人々の歴史をつむいでつなぐ—洞爺湖有珠山ジオパークでのガイド活動— (中山 洋子)
栗駒山麓ジオパーク学習における科学的伴走支援 (佐藤 翔輔)
総合討論「社会のサステナビリティを高める防災・減災活動のあり方—ジオパークは何かできるのか—」 (横山 光)

O-10 阪神・淡路大震災から30年—教訓と進展

コンピーナ: 吾妻 崇, 松島 信一, 田村 和夫, 卜部 厚志

講演内容

1995年兵庫県南部地震以降における活断層研究の進展と課題 (吾妻 崇)
地震調査研究推進本部と全国地震動予測地図 (松島 信一)
阪神・淡路大震災後の土木構造物の耐震設計の変遷 (本田 利器)
建物の大被害とその後の耐震設計 (篠崎 洋三)
なぜ耐震化は進まないのか (永松 伸吾)

O-11 高校生ポスター発表

コンピーナ: 原 辰彦, 紺屋 恵子, 鈴木 智恵子, 中西 諒
高校生が気象, 地震, 地球環境, 地質, 太陽系などの地球惑星科学分野で行った学習・研究活動をポスター形式で発表します。高校生が地球惑星科学分野の第一線の研究者と議論できる機会を提供します。
80の高校・団体による127件の発表

ユニオンセッション

ユニオンセッションは, 地球惑星科学のフロンティアや地球惑星科学のコミュニティ全体に共通する課題を全研究者に広く周知し, 議論するためのセッションです。今年は15件のセッションが開催されます。一部のユニオンセッションは口頭発表のみでポスター発表はありません。

U-01 Great Debate: Geohazards, societal risks and the development of resilience

自然災害, 気候変動の長期的影響, 鉱物資源や水資源の枯渇がもたらす課題に対応するため, よりレジリエントな社会の構築に地球科学がどのように貢献できるかを考察します。
口頭発表: 5月30日 (金) AM1, AM2
コンピーナ: ウォリス リチャード サイモン, Kristen Averyt, 小口 高, 高橋 幸弘
講演者: Bruce D Malamud, Decibel Villarisco Faustino-Eslava, 佐竹 健治, Chun-Chieh Wu, 張 竝瑜, Kristen Averyt

U-02 人新世・第四紀の気候および水循環

口頭発表: 5月28日 (水) PM1, PM2
現地ポスターコアタイム: 5月28日 (水) PM3
コンピーナ: 窪田 薫, Li Lo, 横山 祐典, Chuan-Chou Shen, 三木 志緒乃
講演者: 平林 頌子, Tanghua Li, Li Lo, Hsun-Ming Hu, Chuan-Chou Shen, 渡辺 泰士, Wenzheng Nie, 黄 子涵, Jasper Alexander Wassenburg, 窪田 薫, Hana Jurikova
(ポスター) 福與 直人, 李 岳洋, 今宮 駿介, Kuo-Fang Huang, 根本 夏林, Ai-Lin Chen, 田畑 薫, Yu-Tsung Tai, 常岡 廉

U-03 Remote Sensing Role in Sustainable Development

口頭発表: 5月25日 (日) PM1
現地ポスターコアタイム: 5月25日 (日) PM3
コンピーナ: Usman Muhammad, 阿部 隆博
講演者: 阿部 隆博, Tao Zeng, JINGYU HAN, Zhaoyan Liu, Shinebayar Turbat, Shi Qiu
(ポスター) Ya-Chen Yang, Shih-Wen Yeh, Chih-Hao Chu, Jui-Han Yang, Son Thanh Nguyen, Aswar Syafnur

U-04 Geospatial Applications for Societal Benefits

口頭発表: 5月30日 (金) PM1, PM2
現地ポスターコアタイム: 5月30日 (金) PM3
コンピーナ: Abdul Rashid Bin Mohamed Shariff, 高橋 幸弘, Gay Jane Perez
講演者: Badamgarav Enkhbayar, Jean De Dieu Byiringiro, Muhammad Arif Yusuf, Siti Nurul Afiah Mohd Johari, San Lin Phyo, Abdul Rashid Bin Mohamed Shariff, Dinesh Saththyamoorthy, Ahmad Shaqeer Mohamed Thaheer, Diane Marie Styers, Mohammed Arkan Majeed, Bayarsaikhan Uudus, Maria Regina Villena Regalado,
(ポスター) 杉山 玄己, Ye Min Htay, Muhammad Shamim, Chen-Yi Wu, Emily Gargulinski, Joel Bandibas, Saiful Anuar Jaafar, Bayarsaikhan Uudus, Begzsuren Tumendemberel, Garid Zorigoo

U-05 気候変動と再生可能エネルギー利用の課題

口頭発表: 5月28日 (水) AM1, AM2
現地ポスターコアタイム: 5月28日 (水) PM3
コンピーナ: 柳澤 教雄, 卜部 厚志, 石峯 康浩, 塩竈 秀夫
講演者: 吉田 明弘, 山野 誠, 小池 克明, 柳澤 教雄, 大庭 雅道, 岡 和孝, 塩竈 秀夫
(ポスター) 正林 奈倫, Pei-Shan Hsieh, CHIH YU YANG, chenwei Chang, 濱元 栄起

U-06 Open and FAIR Science: strategies, infrastructures, practices and communities

口頭発表: 5月26日 (月) AM1, AM2
現地ポスターコアタイム: 5月26日 (月) PM3
コンピーナ: 村山 泰啓, Cecconi Baptiste, Shelley Stall, 近藤 康久
講演者: Martina Stockhause, 大谷 栄治, Kirsten Elger, Reyna Jenkyns, 近藤 康久, 林 和弘, Xiaogang Ma, Baptiste Cecconi, Pierre Le Sidaner, Vincent Tong
(ポスター) 渡邊 堯, Shelley Stall, 村山 泰啓, 佐藤 知生, 白井 知子, 福田 陽子, 阿部 修司, Jamie Ian Farquharson, Balazs Bradak

U-07 Open and FAIR Science: strategies, infrastructures, practices and communities

口頭発表: 5月25日 (日) AM1
コンピーナ: 堀 利栄, Claudia Jesus-Rydy, Billy M Williams
講演者: Alberto Montanari, 若狭 幸, 黄 子涵, 堀 利栄, ソン ウォンソ

U-08 Geoscience Research/Education Across Language And Cultural Boundaries 2: Organization Perspectives

研究, アウトリーチ, 教育において, 地球科学者が言語や文化の壁を

どのように克服できるかを一緒に探りませんか？このセッションでは、主に組織的な立場から、多言語対応の取り組みを通じて地球科学の知識を共創し、共有する取り組みを募集します。アクセシビリティを促進し、グローバルな知識基盤を構築するため、多様なコミュニティや組織からの実践的な事例紹介や、意見交換を行いましょう。

口頭発表：5月27日（火）PM2

現地ポスターコアタイム 5月27日（火）PM3

コンピーナ：Vincent Tong, 早川 裕弐, 小口 千明, Ting Wang

講演者：高橋 幸弘

（ポスター）Yasuhiro Murayama, 高野 陽平, 堀 利栄, 王 功輝, Mohammad Rajib, Muhammad Usman, Akos Torok, ソン ウォンソ, Ya-Yin Liao, Hsiang-ling Hsu, Chien Pi Chen

U-09 知の創造の価値とは何か

口頭発表：5月27日（火）AM1

現地ポスターコアタイム：5月27日（火）PM3

コンピーナ：島村 道代, 大西 有子, Mark Mocettini Shimamoto, 末広 潔

講演者：Janice Lachance, 島村 道代

（ポスター）島村 道代, 大西 有子

U-10 日本のオープンアクセスジャーナルと即時オープンアクセス義務化

口頭発表：5月25日（日）PM2

コンピーナ：小田 啓邦, 川幡 穂高

講演者：井出 和希, 玉澤 春史, 村山 泰啓, 川幡 穂高

U-11 連鎖複合災害に対峙する人間圏：能登半島豪雨災害の総合科学

口頭発表：5月29日（木）PM1, PM2

現地ポスターコアタイム：5月29日（木）PM3

コンピーナ：松四 雄騎, 宮地 良典, 佐々 浩司, 田村 和夫

講演者：末木 健太, 松四 雄騎, 山野井 一輝, 佐山 敬洋, 浅井 健一, 牛山 素行, 田村 和夫

（ポスター）高橋 尚志, 小暮 哲也, 小寺 凌

U-12 CO 環境の生命惑星化学

口頭発表：5月29日（木）AM1, AM2

現地ポスターコアタイム：5月29日（木）PM3

コンピーナ：上野 雄一郎, 北台 紀夫, 鈴木 志野, 尾崎 和海

講演者：古川 善博, 黒川 宏之, 遠藤 美朗, 渡辺 泰士, 中川 広務, 楊 澤寧, 藏 曉鳳, 小林 憲正, 田川 翔大朗, 大岡 英史, 大前 公保（ポスター）瀧 哲朗, *TRIEU THI NGOC TRAN, 深澤 こはる, 小木 菜々夏, 浅倉 裕太, 種村 晶, 山口 晃, 北台 紀夫, 岡田 賢, 吉信 淳, 山本 正浩

U-13 人工知能が拓く地球惑星科学の将来

口頭発表：5月25日（日）AM2

コンピーナ：長尾 大道, 高橋 幸弘, 飯田 佑輔, 中野 満寿男

講演者：杉山 将, 片岡 龍峰, 石崎 紀子, 内出 崇彦

U-14 地球惑星科学の進むべき道12：地球惑星科学分野の将来構想

口頭発表：5月26日（月）PM1, PM2

コンピーナ：倉本 圭, 佐竹 健治, 中村 卓司, ウォリス リチャード サイモン

講演者：倉本 圭, 中本 泰史, 田中 聡, 佐藤 薫, 大河内 直彦, 須貝 俊彦, 中村 卓司

U-15 言語や文化の壁を越えた地球科学の研究と教育

地球科学の知識を、言語や文化の壁を越えて共有する効果的な方法を、一緒に探りませんか？研究、教育、アウトリーチ、学会活動における多言語対応の取り組みを通じて、共創とアクセシビリティの向上を目指しましょう。教育現場での様々な学習者への対応、ジオパークや博物館での翻訳・広報戦略、研究の国際的発信方法、多言語環境での学

会発表支援など、主に研究者の立場からの具体例や意見を募集します。皆様の参加を歓迎します！

口頭発表：5月27日（火）PM1

現地ポスターコアタイム：5月27日（火）PM3

コンピーナ：早川 裕弐, Vincent Tong, 小口 千明, Ting Wang

講演者：島村 道代

（ポスター）後藤 和久, Christopher A Gomez, Azim Zulhilmi, 王 婷, 佐藤 毅彦, 小山 幸伸, 河本 大地, YEN-LING LIN

セッション企画セッション

セッション企画セッションは、2025年大会から始まりました、JpGUの5セッションが主催するセッションです。

2025年大会では、下記3件のセッション企画セッションが開催されます。所属セッションに関係なく、どなたでもご参加いただけます。

L-01 宇宙惑星科学レクチャー

口頭発表：5月25日（日）AM2

L-02 大気水圏科学の最前線2「人為起源の現象・その影響」

口頭発表：5月26日（月）PM2

L-03 地球人間圏科学の新展開

口頭発表：5月29日（木）AM2

現地ポスターコアタイム：5月29日（木）PM3

地球人間圏科学は、多様な専門分野の研究者が集い、地球・地域環境と人間社会との関係を幅広く探究する新しいセッションです。本セッションでは、人新世、気候変動、災害、生態系、資源エネルギー、社会をキーワードに、地球人間圏科学を担う研究者に登壇いただきます。持続可能な開発の視点からよりよい地球と人間との関係の構築へ向けて、文理を横断する最新の知見を共有し、地球人間圏科学の新たな視点を提供したいと考えます。

ハ イライトセッション

JpGUで行われる全発表の中からセッションと広報普及委員会が選出した注目セッションがハイライトセッションです。ハイライトセッションに選ばれたセッションのコンピーナには、更に特に注目していただきたいハイライト論文の選出を依頼しております。ハイライト論文は決まり次第、大会ウェブページやSNSなどでご紹介してまいります。

ユニオンセッション

U-12 CO 環境の生命惑星化学

パブリックセッション

O-10 阪神・淡路大震災から30年—教訓と進展

宇宙惑星科学セッション

P-PS03 太陽系小天体：太陽系の形成と進化における最新成果と今後の展望

P-CG20 宇宙・惑星探査の将来計画および関連する機器開発の展望
M-ZZ40 プラネタリーディフェンス - 国際的な取り組みと協力

大気水圏科学セッション

L-02 大気水圏科学の最前線2「人為起源の現象・その影響」

A-AS06 大気圏（成層圏・対流圏）過程とその気候への影響

A-AS07 EarthCARE による雲エアロゾル放射科学の幕開け

A-OS15 Marine ecosystems and biogeochemical cycles: theory, observation and modeling

A-HW27 流域圏生態系における生物多様性・栄養循環・物質輸送

A-CG54 有人・無人航空機による気候・地球システム科学研究の推進

地球人間圏科学セッション

L-03 地球人間圏科学の新展開

HGG-03 自然資源・環境に関する地球科学と社会科学の対話

HDS-11 人間環境と災害リスク

HCG-23 文化水文学

地球生命科学セッション

M-IS14 古気候・古海洋変動

教育・アウトリーチセッション

G-04 小・中・高等学校、大学の地球
惑星科学教育

各種展示

期間：5月25日（日）～30日（金）

内容：大学・研究所・研究団体・企業・出版社・
政府機関などによる、最新プロジェクト等
の公開・研究発表・情報交換・交流の場です。
各オンライン展示ブースでの展示を行います。
豪華景品があたるクイズラリー等のイベン
トも開催します。ぜひお立ち寄りください。

▼企業

地震計の勝島製作所／ブルカージャパン株
式会社／NV5 Geospatial 株式会社／株式
会社パレオ・ラボ／NETZSCH Japan 株式
会社／“ソフトバンク株式会社／ALES
株式会社／ソフトバンク独自基準点デー
タの宇宙地球科学用途利活用コンソーシ
アム”／株式会社ニューテック／セイコー
エプソン株式会社／白山工業株式会社／
メイジテクノ株式会社／Tokyo Sokushin
Nanometrics／株式会社レーザック／
イネーブラー株式会社／QUAKEBELL
／SmartSolo Scientific／アジア航測株
式会社／応用地質株式会社／株式会社
JDRONE／石油資源開発株式会社／株式
会社地球科学総合研究所／超電導センサテ
クノロジー株式会社／株式会社ジオシス／
“三洋貿易／Picarro 同位体比分析装置”
／SGS Beta／株式会社マリノ・ワーク・
ジャパン／株式会社 INPEX／

▼出版社、書籍販売

共立出版株式会社／株式会社 古今書院／
一般財団法人 東京大学出版会／株式会
社朝倉書店／MDPI／Springer Nature／
(株)ニュートリノ東京／

▼グッズ販売

ジオイ T シャツ屋さん／加速キッチン／
総理舎／RC GEAR／イケガミ・ジオリ
サーチ／ジオガシ旅行団／加速キッチン／
株式会社 ニチカ／自然科学モチーフのア
クセサリー 包み屋 kurumiya／

▼大学、大学院、研究所

名古屋大学宇宙地球環境研究所／岡山大学
惑星物質研究所／京都大学地球惑星科学
連合／愛媛大学地球深部ダイナミクス研
究センター／東京科学大学 地球生命研
究所 (ELSI)／JAXA 地球観測研究センター
／東京大学 大学院理学系研究科 地球惑星
科学専攻／東北大学 地球物理学専攻・地
学専攻／東北大学 環境・地球科学国際共
同大学院プログラム／東北大学変動地球共
生学卓越大学院プログラム／会津大学宇
宙情報科学研究センター／統計数理研究
所 データ同化研究センター／東京都立大
学大学院 都市環境科学研究科 地理環境
学域／東京大学大気海洋研究所／大阪大
学 大学院理学研究科 宇宙地球科学専攻／

東京大学地震研究所／千葉工業大学 惑星
探査研究センター／北海道大学理学部地球
惑星科学科／北海道大学低温科学研究所／
JAMSTEC 地球シミュレータ／

▼研究機関

国立環境研究所 衛星観測センター／総
合地球環境学研究所（地球研）／“地球掘削科学
JAMSTEC／J-DESC／Kochi Univ.”／
GeoGPT／産業技術総合研究所 地質調
査総合センター／東北大学・海洋研究開
発機構 変動海洋エコシステム高等研究所
（WPI-AIMEC）／“国立天文台アルマプロ
ジェクト／TMT プロジェクト”／国立研
究開発法人防災科学技術研究所／気象庁・
気象研究所・地磁気観測所・気象大学校／

▼学会、学術団体

公益社団法人 東京地学協会／Earth,
Planets and Space (EPS 誌)／日本海洋学
会／(社)日本地質学会／公益財団法人 物
理探査学会／日本地球化学会／地球電磁
気・地球惑星圏学会 (SGEPSS)／日本火
山学会／日本鉱物科学会／日本古生物学会
／日本測地学会／

▼プロジェクト、事業

グローバル南極学／学術変革領域研究 (A)
Slow-to-Fast 地震学／みんなで翻刻／

▼行政・その他団体

独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源
機構 (JOGMEC) 原子力発電環境整備機構
(NUMO) 原子力規制庁 地震・津波研究
部門／

▼JpGU and Friends

TCGU／Asia Oceania Geosciences
Society (AOGS)／European Geosciences
Union (EGU)／AGU／Progress in Earth
and Planetary Science (PEPS 誌)／日本地
球惑星科学連合／

(カテゴリーごとと出展順、4月22日現在)

開催セッション一覧

◎／口頭発表開催日

②／ポスター発表開催日

ユニオン (U)

ユニオン

U-01 [E] Geoscience for building resilience
(◎30)U-02 [E] Quaternary hydroclimate changes
(◎28, ◎28)U-03 [E] Remote Sensing and Sustainability
(◎25, ◎25)

U-04 [E] Geospatial Applications (◎30, ◎30)

U-05 [E] 気候変動と再エネ (◎28, ◎28)

U-06 [E] Open and FAIR Science (◎26, ◎26)

U-07 [E] Equity/Equality, Diversity and
Inclusion (◎25)U-08 [E] GEOSCIENCE ACROSS
LANGUAGE AND CULTURE 2
(◎27, ◎27)U-09 [E] 知の創造の価値とは何か
(◎27, ◎27)

U-10 [J] オープンアクセス義務化 (◎25)

U-11 [J] 能登半島連鎖複合災害 (◎29, ◎29)

U-12 [J] CO 環境の生命惑星化学 (◎29, ◎29)

U-13 [J] AI 地球惑星科学 (◎25)

U-14 [J] 分野将来構想 (◎26)

U-15 [J] 地球科学と言語・文化の壁
(◎27, ◎27)

パブリック (O)

パブリック

O-01 [J] トップセミナー (◎25)

O-02 [J] 地球科学アート (◎25, ◎25)

O-03 [J] 海洋プラスチック汚染考 (◎25, ◎25)

O-04 [J] 自然災害と学校での学び (◎25, ◎25)

O-05 [J] 変動帯の地質と文化 (◎25, ◎25)

O-06 [J] 西之島の現在と未来 (◎25)

O-07 [J] 国連海洋科学の10年 (◎25)

O-08 [J] キッチン地球科学 (◎25, ◎25)

O-09 [J] 日本のジオパーク (◎25)

O-10 [J] 阪神・淡路大震災30年 (◎25)

O-11 [J] 高校生ポスター発表 (◎25, ◎25)

セッション企画 (L)

セッション企画

L-01 [E] セクションレクチャー (◎25)

L-02 [J] 人為の起源の現象・影響 (◎26)

L-03 [J] 地球人間圏科学の新展開 (◎29, ◎29)

宇宙惑星科学 (P)

惑星科学 (PS)

P-PS01 [E] Outer Solar System Exploration
(◎30, ◎30)

P-PS02 [E] Regolith Science (◎29, ◎29)

P-PS03 [E] 太陽系小天体 (◎30, ◎30)

P-PS04 [E] Mercury Science and Exploration
(◎25, ◎25)

P-PS05 [E] Venus Science (◎27, 28, ◎27)

P-PS06 [J] 惑星科学 (◎25, 26, ◎26)

P-PS07 [J] 太陽系物質進化 (◎29, ◎29)

P-PS08 [J] 月の科学と探査 (◎30, ◎30)

P-PS09 [E] 火星と火星衛星 (◎27, ◎27)

太陽地球系科学・宇宙電磁気学・宇宙環境 (EM)
P-EM10 [E] Space Weather and Space Climate
(◎27, 28, ◎27)P-EM11 [E] Frontiers in solar physics
(◎26, ◎26)P-EM12 [E] Atmosphere-Ionosphere Coupling
(◎25, 26, ◎25)P-EM13 [E] Inner Magnetospheric System
(◎28, ◎28)

P-EM14 [E] 太陽地球系結合過程 (◎28, ◎28)

P-EM15 [E] Magnetosphere-Ionosphere
(◎29, ◎29)

P-EM16 [J] 太陽圏 (◎26, ◎26)

P-EM17 [J] 宇宙プラズマ科学 (◎27, ◎27)

天文学・太陽系外天体 (AE)

P-AE18 [E] Exoplanets (◎30, ◎30)

宇宙惑星科学複合領域・一般 (CG)

P-CG19 [E] 惑星大気圏・電磁圏 (◎28, ◎28)

P-CG20 [E] 将来探査計画と機器開発
(◎29, ◎29)

P-CG21 [J] 宇宙物質 (◎28, ◎28)

大気水圏科学 (A)

大気科学・気象学・大気環境 (AS)

- A-AS01 [E] 気象の制御可能性 (©30, ©30)
 A-AS02 [E] 台風 (©25, ©25)
 A-AS03 [E] Extreme Events and Mesoscale Weather (©27, ©27)
 A-AS04 [E] 鉛直運動地球環境学 (©30, ©30)
 A-AS05 [E] 高性能計算が拓く大気科学 (©28, ©28)
 A-AS06 [E] 大気 (成層) 圏過程と気候 (©27, ©27)
 A-AS07 [E] EarthCARE 科学 (©30, ©30)
 A-AS08 [E] 水蒸気と雲 (©28, ©28)
 A-AS09 [J] 応用気象学 (©27, ©27)
 A-AS10 [J] General Meteorology (©26, ©26)
 A-AS11 [J] 大気化学 (©25, ©26, ©26)

海洋科学・海洋環境 (OS)

- A-OS12 [E] 全球海洋観測システム (©27, ©27)
 A-OS13 [E] Exploring Ocean Biogeochemistry (©28, ©28)
 A-OS14 [E] 陸域海洋総合作用 (©26, ©26)
 A-OS15 [E] Marine ecosystems & biogeochem. cycles (©29, ©29)
 A-OS16 [E] Marine sciences in the Indian Ocean (©27, ©27)
 A-OS17 [J] 海洋微生物生態系 (©27, ©27)
 A-OS18 [J] 海洋物理学一般 (©26, ©26)
 A-OS19 [J] 温暖化時の海面上昇 (©29, ©29)
 A-OS20 [J] 海洋化学・生物学一般 (©27, ©27)
 A-OS21 [J] 沿岸海洋 (©26, ©26)
 A-OS22 [E] Morphology, Management, and Techniques (©27, ©27)
 A-HW23 [E] Tracer Hydrology (©30, ©30)
 A-HW24 [E] Terrestrial water cycle in Anthropocene (©26, ©26)
 A-HW25 [E] Groundwater Resources Conservation (©25, ©25)
 A-HW26 [E] Surface-groundwater interactions (©25, ©25)

水文・陸水・地下水学・水環境 (HW)

- A-HW27 [E] 流域科学 (©29, ©29)
 A-HW28 [E] 水循環・水環境 (©28, ©28)
 A-HW29 [E] Hydro-Geomorphological Interactions (©28, ©28)
 A-HW30 [J] 同位体水文学 2025 (©30, ©30)
 A-HW31 [J] 都市域の水環境と地質 (©27, ©27)

雪氷学・寒冷環境 (CC)

- A-CC32 [J] 雪氷学 (©28, ©28)
 A-CC33 [J] アイスコアと古環境 (©28, ©28)

地質環境・土壌環境 (GE)

- A-GE34 [E] 物質移行及び環境評価 (©30, ©30)

計測技術・研究手法 (TT)

- A-TT35 [E] Machine Learning Techniques applications (©30, ©30)

大気海洋・環境科学複合領域・一般 (CG)

- A-CG36 [E] 中緯度大気海洋相互作用 (©26, ©26)
 A-CG37 [E] Dynamics connecting land and oceans [En] (©27, ©27)
 A-CG38 [E] Climate Variability and Predictability (©28, ©28)
 A-CG39 [E] グローバル炭素循環 (©27, ©27)

- A-CG40 [E] Earth System Observation impacts (©27, ©27)
 A-CG41 [E] Satellite Earth Environment Observation (©28, ©29, ©29)
 A-CG42 [E] 地球規模環境変化 (©29, ©29)
 A-CG43 [E] Tropical ocean-atmosphere interaction (©28, ©28)
 A-CG44 [E] 静止衛星による陸面観測 (©28, ©28)
 A-CG45 [E] AsiaPEX field campaign strategies (©26, ©26)
 A-CG46 [J] 陸域生態系の物質循環 (©27, ©27)
 A-CG47 [J] 海洋と大気の力学 (©25, ©25)
 A-CG48 [J] 陸から沿岸の水・土砂動態 (©27, ©27)
 A-CG49 [J] 黒潮大蛇行 (©26, ©26)
 A-CG50 [J] 海洋—大気間生物地球化学 (©29, ©29)
 A-CG51 [J] サンゴ礁と浅海生態系 (©28, ©28)
 A-CG52 [J] 北極域の科学 (©29, ©29)
 A-CG53 [J] 水循環と陸海相互作用 (©28, ©28)
 A-CG54 [J] 航空機観測 (©27, ©27)
 A-CG55 [J] 分野横断型シナリオ研究 (©29)

地球人間圏科学 (H)

地理学 (GG)

- H-GG01 [E] Disasters, Agriculture and Geosciences (©28)
 H-GG02 [J] 地誌学 (©30)
 H-GG03 [J] 自然資源・環境の科学対話 (©29, ©29)

地形学 (GM)

- H-GM04 [J] 地形 (©26, ©26)

第四紀学 (QR)

- H-QR05 [J] 第四紀 (©29, ©29)

社会地球科学・社会都市システム (SC)

- H-SC06 [J] 地球温暖化防止 CCUS (©27, ©27)

防災地球科学 (DS)

- H-DS07 [E] 地すべり (©30, ©30)
 H-DS08 [E] Population Data for Assessing Risk (©27)
 H-DS09 [J] 防災リテラシー (©26, ©26)
 H-DS10 [J] 津波とその予測 (©30, ©30)
 H-DS11 [J] 人間環境と災害リスク (©25, ©25)
 A-RE12 [J] 資源地球科学 (©26, ©26)
 H-RE13 [J] 応用地質学の展開 (©27, ©27)
 H-TT14 [E] 高精細地形地理情報連結性 (©29, ©29)
 H-TT15 [E] GIS and Cartography (©29, ©29)
 H-TT16 [J] 環境トレーサビリティ (©28, ©28)
 H-TT17 [J] GIS と地図 (©29, ©30, ©29)
 A-CG18 [E] 景観とレクリエーション (©25)
 H-CG19 [E] Micro-pollutants and Geosciences (©28, ©28)

- H-CG20 [J] 原子力と地球惑星科学 (©25, ©25)

- H-CG21 [J] 堆積・侵食・地形発達 (©27, ©27)
 H-CG22 [J] CTBT 国際監視制度 (©27, ©27)
 H-CG23 [J] 文化水文学 (©30, ©30)
 H-CG24 [J] 気候変動適応と社会実装 (©26, ©26)
 H-CG25 [J] 閉鎖生態系と生物システム (©25, ©25)

固体地球科学 (S)

測地学 (GD)

- S-GD01 [E] Geodesy for Hazard & Environment Change (©28, ©28)
 S-GD02 [J] 測地学・GGOS (©25, ©25)
 S-GD03 [J] 地殻変動 (©26, ©26)

地震学 (SS)

- S-SS04 [E] Seismological advances in the ocean (©29, ©29)
 S-SS05 [E] Advancements in Seismic Networks (©29, ©29)
 S-SS06 [E] New trends in seismology (©30, ©30)
 S-SS07 [E] Environmental Seismology (©25, ©25)
 S-SS08 [J] 地殻構造 (©29, ©29)
 S-SS09 [J] 地震波伝播 (©30, ©30)
 S-SS10 [J] 地震物理・断層レオロジー (©29, ©30, ©30)
 S-SS11 [J] 強震動・地震災害 (©29, ©30, ©30)
 S-SS12 [J] 地震活動とその物理 (©28, ©29, ©28)
 S-SS13 [J] 地震予知・予測 (©28)
 S-SS14 [J] 活断層と古地震 (©26, ©26)

固体地球電磁気学 (EM)

- S-EM15 [E] EM survey technologies & achievements (©27, ©28, ©27)

地球内部科学・地球惑星テクニクス (IT)

- S-IT17 [E] Mass and energy transport (©26, ©26)
 S-IT18 [E] 惑星中心核 (©30, ©30)
 S-IT19 [E] Deep Earth-surface coupling (©27, ©27)
 S-IT20 [E] 地球深部科学 (©28, ©29, ©28)
 S-IT21 [E] Solar system beginnings (©27, ©27)

地質学 (GL)

- S-GL22 [J] 年代学・同位体 (©27, ©27)
 S-GL23 [J] 日本・東アジアの地質 (©29, ©29)

資源・鉱床・資源探査 (RD)

- S-RD24 [E] Sensing technology for geological survey (©30, ©30)

岩石学・鉱物学 (MP)

- S-MP25 [E] Oceanic & Cont. Subduc. Proc. (©26, ©26)
 S-MP26 [E] Supercontinents and Crustal Evolution (©29, ©29)
 S-MP27 [E] Unravelling Earth's ancient reservoirs (©27)
 S-MP28 [J] 変形岩・変成岩 (©27, ©27)
 S-MP29 [J] 鉱物の物理化学 (©28, ©28)

火山学 (VC)

- S-VC30 [E] International Volcanology (©28, ©28)
- S-VC31 [J] 火山防災の基礎と応用 (©25, ©25)
- S-VC32 [J] 活動的火山 (©26, 27, ©26)
- S-VC33 [J] 火山噴火のメカニズム (©26, ©26)
- S-VC34 [J] 火山・火成活動と長期予測 (©27, ©27)
- S-VC35 [J] 火山の熱水系 (©25, ©25)
- S-VC36 [J] 海域火山 (©28, ©28)

固体地球化学 (GC)

- S-GC37 [E] Volatiles in the Earth (©27, ©27)
- S-GC38 [J] 固体地惑化 (©27, ©27)

計測技術・研究手法 (TT)

- S-TT39 [J] 空中計測 (©26, ©26)
- S-TT40 [J] SAR とその応用 (©25, ©25)
- S-TT41 [J] 地震観測・処理システム (©30, ©30)
- S-TT42 [J] 光ファイバーセンシング (©29, ©29)
- S-TT43 [J] ベイズ地震データ解析 (©26, ©26)

固体地球科学複合領域・一般 (CG)

- S-CG44 [E] 表層変動と年代学 (©27, ©27)
- S-CG45 [E] Science of slow-to-fast earthquakes (©26, 27, 28, ©28)
- S-CG46 [E] Stress and Strengthening in Megathrust (©26, ©26)
- S-CG48 [E] Planetary interiors (©30, ©30)
- S-CG49 [E] seismic and secondary hazard/risk (©29, ©29)
- S-CG50 [E] Ryukyu Trench and Okinawa Trough (©28, ©28)
- S-CG51 [E] ハードロック掘削科学 (©26, ©26)
- S-CG52 [E] Inter-segment Tectonics (©25, ©25)
- S-CG53 [J] 岩石・鉱物・資源 (©28, ©28)
- S-CG54 [J] 岩石一流体相互作用 (©30, ©30)
- S-CG55 [J] 海洋底地球科学 (©27, 28, ©28)
- S-CG56 [J] 地殻流体と地殻変動 (©28, ©28)
- S-CG57 [J] ハイブリッド年代学 (©27, ©27)
- S-CG58 [J] 材料科学と地球科学の融合 (©29, ©29)
- S-CG59 [J] 沈み込み帯へのインプット (©25, ©25)
- S-CG60 [J] 機械学習@固体地球科学 (©26, ©26)
- S-CG61 [J] 変動帯ダイナミクス (©28, 29, ©28)
- S-CG62 [J] レオロジーと破壊・摩擦 (©29, ©29)
- S-CG63 [J] 地震動・地殻変動即時解析 (©29, ©29)

地球生命科学 (B)

地球生命科学・地圏生物圏相互作用 (BG)

- B-BG01 [E] 生命圏フロンティア (©26, ©26)
- B-BG02 [J] 岩石生命相互作用 (©26, ©26)

古生物学・古生態学 (PT)

- B-PT03 [E] 生体鉱化作用環境プロキシ (©26, ©26)
- B-PT04 [J] 地球生命史 (©27, ©27)
- 地球生命科学複合領域・一般 (CG)
- B-CG05 [E] Methane: from microbes to the atmosphere (©25, ©25)
- B-CG06 [J] 地球史解説 (©28, ©28)
- B-CG07 [J] 微化石生物学の最前線 (©27, ©27)

教育・アウトリーチ (G)

教育・アウトリーチ

- G-01 [J] 地球惑星科学アウトリーチ (©25, ©25)
- G-02 [J] 地球科学と情報デザイン (©25, ©25)
- G-03 [J] 防災教育 (©25, ©25)
- G-04 [J] 小・中・高・大学の教育 (©25, ©25)

領域外・複数領域 (M)

ジョイント (IS)

- M-IS01 [E] 粒子重力流 (©30, ©30)
- M-IS02 [E] 海洋プラスチック (©26, ©26)
- M-IS03 [E] Wetland ecosystems under pressure (©28, ©28)
- M-IS04 [E] Extreme Weather in Asia (©30, ©30)
- M-IS05 [E] CHANGES IN NORTHERN EURASIA (©25, ©25)
- M-IS06 [E] Cenozoic Indo-Pacific climate (©29, ©29)
- M-IS07 [E] Geomaterials in cultural heritage (©28)
- M-IS08 [E] アストロバイオロジー (©27, ©27)
- M-IS09 [E] pre-earthquake processes (©25, ©25)
- M-IS10 [J] ジオパーク (©26, ©26)
- M-IS11 [J] 津波堆積物 (©29, ©29)
- M-IS12 [J] 山の科学 (©29, ©29)
- M-IS13 [J] 結晶成長・溶解 (©25, ©25)
- M-IS14 [J] 古気候・古海洋 (©29, 30, ©29)
- M-IS15 [J] グローバル南極学 (©27, ©27)
- M-IS16 [J] 地球流体力学 (©25, ©25)
- M-IS17 [J] 地質学のいま (©26, ©26)
- M-IS18 [J] 惑星火山学 (©25, ©25)
- M-IS19 [J] 大気電気学 (©29, ©29)

- M-IS20 [J] 海底のメタンと地球環境 (©25, ©25)

- M-IS21 [J] プラスチック汚染 (©25, ©25)
- M-IS22 [J] 生物地球化学 (©27, ©27)
- M-IS23 [J] 非破壊分析 (©27, ©27)
- M-IS24 [J] 歴史学 × 地球惑星科学 (©28, ©28)

地球科学一般・情報地球科学 (GI)

- M-GI25 [E] Paleoenvironment in the Pacific Islands (©26, ©26)
- M-GI26 [E] Data assimilation (©30, ©30)
- M-GI27 [E] Data driven study in weather prediction (©29, ©29)
- M-GI28 [J] 地球掘削科学 (©27, ©27)
- M-GI29 [J] データ駆動地球惑星科学 (©26, ©26)
- M-GI30 [J] 計算宇宙惑星地球 (©27, ©27)
- M-GI31 [J] 情報地惑とデータ利活用 (©27, ©27)

応用地球科学 (AG)

- M-AG32 [E] Renewable Energy (©28, ©28)
- M-AG33 [E] Satellite Land Processes Monitoring (©29, ©29)
- M-AG34 [J] ラジオアイソトープ移行 (©29, ©29)

宇宙開発・地球観測 (SD)

- M-SD35 [J] 将来の衛星地球観測 (©30, ©30)

計測技術・研究手法 (TT)

- M-TT36 [J] 雪氷圏地震学 (©27)
- M-TT37 [J] 稠密多点 GNSS 地球科学 (©26, ©26)
- M-TT38 [J] マルチセンシング (©28, ©28)
- M-TT39 [J] 低周波が繋ぐ多圏融合物理 (©28, ©28)

その他 (ZZ)

- M-ZZ40 [E] プラネタリーディフェンス (©29, ©29)
- M-ZZ41 [J] 地球惑星科学の科学論 (©26, ©26)
- M-ZZ42 [J] 地球化学最前線・挑戦展望 (©30, ©30)
- M-ZZ43 [J] 超学際ネットワーク形成 (©25, ©25)
- M-ZZ44 [J] 海底マンガング床 (©29, ©29)
- M-ZZ45 [J] 日本のジオパーク (©25)

朝倉書店

JpGU Meeting 2025

学会員様限定 特別書籍販売あり！

▶こちらの URL よりお申し込みください。

<https://asakura-jpgu2025.square.site/>

朝倉書店

〒162-8707 東京都新宿区新小川町 6-29
電話 営業部 (03) 3260-7631 FAX (03) 3260-0180
<https://www.asakura.co.jp> eiigo@asakura.co.jp

プログラム一覧

JpGU 2025 コマ割

会場	5月25日(日)					5月26日(月)					5月27日(火)				
	AM1 9:00-10:30	AM2 10:45-12:15	PM1 13:45-15:15	PM2 15:30-17:00	PM3 17:15-19:15	AM1 9:00-10:30	AM2 10:45-12:15	PM1 13:45-15:15	PM2 15:30-17:00	PM3 17:15-19:15	AM1 9:00-10:30	AM2 10:45-12:15	PM1 13:45-15:15	PM2 15:30-17:00	PM3 17:15-19:15
EXH01	U-07 [E] Equity/Equality, Diversity and Inclusion (EDI) in the geoscience	U-13 [J] 人工知能が拓く地球惑星科学の将来	U-03 [E] Remote Sensing Role in Sustainable Development	U-10 [J] 日本のオープンアクセスジャーナルと即時オープンアクセス義務化	【現地ポスター】 U-03 U-02 O-04 O-05 O-08 O-11 P-PS04 P-EM12 A-AS02 A-HW25 A-HW26 A-CG47 H-DS11	U-06 [E] Open and FAIR Science: strategies, infrastructures, practices and communities	U-14 [J] 地球惑星科学の進むべき道12：地球惑星科学分野の将来構想	U-06 U-06 U-14 P-PS06 P-EM11 P-EM16 A-AS10 A-AS11 A-OS14 A-OS18 A-OS21 A-HW24 A-CG36 A-CG45	【現地ポスター】 U-06 U-06 U-14 P-PS06 P-EM11 P-EM16 A-AS10 A-AS11 A-OS14 A-OS18 A-OS21 A-HW24 A-CG36 A-CG45	U-09 [E] 知の創造の価値とは何か S-IT21 [E] Understanding the first 150 million years of the solar system	U-15 [J] 言語や文化の壁を越えた地球科学の研究と教育	U-08 [E] Geoscience Research Education Across Language And Cultural Boundaries 2. Organization Perspectives	【現地ポスター】 U-08 U-09 U-15 P-PS05 P-PS09 P-EM10 P-EM17 A-AS03 A-AS06 A-AS09 A-OS12 A-OS16 A-OS17 A-OS20 A-HW22 A-HW31 A-CG37 A-CG39 A-CG40 A-CG46 A-CG48 A-CG54 H-SC06 H-DS08 H-RE13 H-CG21 H-CG22 S-EM15 S-IT19 S-IT21 S-GL22 S-MP27 S-MP28 S-VC34 S-GC37 S-GC38 S-CG44 S-CG57 B-PT04 B-CG07 M-ISO8 M-IS15 M-IS22 M-IS23 M-GI28 M-GI30 M-GI31 M-TT36		
EXH02	B-CG05 [E] Methane in terrestrial and aquatic ecosystems: from microbes to the atmosphere	M-IS20 [J] 海底のメタンを取り巻く地圏-水圏-生命圏の相互作用と進化	O-04 [J] 「あなたは自然災害から生き残りますか？学校での学びで！」	O-06 [J] 新島誕生11年：ダイナミックな変化を続ける西之島の現在と未来	O-01 [J] 地球惑星科学トップセミナー	A-OS14 [E] 陸域海洋相互作用-惑星スケールの物質輸送	A-OS21 [J] 沿岸域の海洋循環と物質循環	◀P-PS06 [J] 惑星科学	A-AS10 [J] 気象学一般	L-02 [J] 大気水圏科学の最前線2「人為起源の現象・その影響」	▶A-OS17 [J] 海洋微生物生態系	A-OS20 [J] 海洋化学・生物学一般	A-CG37 [E] Water and Sediment Dynamics from Land to Oceans [En]	◀A-OS17 [J] 海洋微生物生態系	
EXH03		O-04 [J] 「あなたは自然災害から生き残りますか？学校での学びで！」	O-06 [J] 新島誕生11年：ダイナミックな変化を続ける西之島の現在と未来	O-01 [J] 地球惑星科学トップセミナー							A-CG46 [J] 陸域生態系の物質循環	A-CG39 [E] グローバル炭素循環の観測と解析			
EXH04	O-07 [J] 国連海洋科学の10年：SDG目標14の推進に向けた今後の展望	O-10 [J] 阪神・淡路大震災から30年-教訓と進展									B-PT04 [J] 地球生命史	▶A-AS09 [J] 応用気象学	A-CG54 [J] 有人・無人航空機による気候・地球システム科学研究の推進	◀A-AS09 [J] 応用気象学	
EXH05	O-05 [J] 変動帯の地質と文化	O-03 [J] これだけは知っておきたい海洋プラスチック汚染	O-02 [J] 地球科学とアートの相互作用			◀A-AS11 [J] 大気化学							A-AS03 [E] Extreme Events and Mesoscale Weather: Observations and Modeling		
EXH06	M-IS05 [E] Environmental, Socio-economic, and Climatic Changes in Northern Eurasia		▶A-AS11 [J] 大気化学			S-SS14 [J] 活断層と古地震							A-CG40 [E] 大気・海洋観測の気候・海洋予測へのインパクト評価	A-OS12 [E] 全球海洋観測システムから迫る海洋科学	
101	▶A-CG47 [J] 海洋と大気の波動・渦・循環の力学	M-IS16 [J] 地球流体力学：地球惑星現象への分野横断的アプローチ	◀A-CG47 [J] 海洋と大気の波動・渦・循環の力学			A-CG49 [J] 黒潮大蛇行	A-CG36 [E] 中緯度大気海洋相互作用				M-IS15 [J] グローバル南極学		A-OS6 [E] Physical, biogeochemical, and ecological processes and variability in the Indian Ocean		
102	A-HW26 [E] Hydrological processes of surface-groundwater interactions	A-AS02 [E] 台風研究の新展開-過去・現在・未来				M-IS02 [E] 地球科学としての海洋プラスチック	H-RE12 [J] 資源地球科学					A-CG48 [J] 陸域から沿岸域における水・土砂動態	M-IS22 [J] 生物地球化学		
103	M-IS21 [J] プラスチック汚染の実態把握と対策	A-HW25 [E] Near Surface Investigation and Modeling for Groundwater Resources Assessment and Conservation				H-GM04 [J] 地形	H-CG24 [J] 気候変動への適応とその社会実装					H-SC06 [J] 地球温暖化防止と地学(CO2地中貯留・有効利用、地球工学)		H-RE13 [J] 応用地質学の新展開	
104	H-DS11 [J] 人間環境と災害リスク	H-CG20 [J] 原子力と地球惑星科学				H-DS09 [J] 防災リテラシー	M-TT37 [J] 観測多点GNSS観測が切り拓く地球科学の新展開					H-CG22 [J] CTBT国際監視制度が拓く地球科学：現状、運用、科学的応用	S-IT19 [E] Coupling of deep Earth and surface processes		
105	S-GD02 [J] 測地学・GGOS	S-TT40 [J] 合成開口レーダーとその応用				S-CG46 [E] Uncovering stress accumulation and fault strengthening of megathrust earthquakes	S-CG60 [J] 機械学習による固体地球科学の牽引				A-AS06 [E] 大気圏(成層圏・対流圏)過程とその気候への影響	A-HW22 [E] River Channel Morphology, Water Resource Management, and Advanced Techniques			
106	S-CG52 [E] Inter-segment Tectonics: Interdisciplinary Research on Responses to Plate Subduction	H-CG25 [J] 圏外環境における閉鎖生態系と生物システムおよびその応用				S-IT17 [E] Mass and energy transport in the crust and mantle: from properties to processes	S-CG51 [E] ハードロック掘削科学：陸上・深海底掘削、そしてオフサイト				M-GI28 [J] 地球掘削科学	H-CG21 [J] 堆積・侵食・地形発達プロセスから読み取る地球表層環境変動			
201A	G-03 [J] 総合的防災教育	M-IS09 [E] Interdisciplinary studies on pre-earthquake processes				M-GI29 [J] データ駆動地球惑星科学	S-TT43 [J] 最先端ベイズ統計学が拓く地震ビッグデータ解析	M-IS17 [J] 地質学のいま			S-CG44 [E] 地殻表層の変動・発達と地球年代学・熟年代学への応用	S-CG57 [J] ハイブリッド年代学-年代値の意味とは？	S-GL22 [J] 地球年代学・同位体地球科学		
201B	M-IS13 [J] 結晶成長・溶解における界面・ナノ現象	G-02 [J] 地球科学：教育と情報デザイン	▶P-PS06 [J] 惑星科学			S-TT39 [J] 空中からの地球計測とモニタリング	A-OS18 [J] 海洋物理学一般				S-MP28 [J] 変形岩・変成岩とテクトニクス		B-MS15 [E] Electric, magnetic and electromagnetic survey technologies and scientific achievements		
IC	O-08 [J] キッチン地球科学：多様な到達点を生む実験	O-09 [J] ジオパークとサステナビリティ(口頭招待講演)				M-IS10 [J] ジオパーク	▶S-CG45 [E] Science of slow-to-fast earthquakes				◀S-CG45 [E] Science of slow-to-fast earthquakes▶				
CH-A		L-01 [E] 宇宙惑星科学リクチャー	M-ZZ43 [J] 宇宙地球環境科学と歴史学・考古学を結ぶ超学際ネットワーク形成			◀S-GD03 [J] 地殻変動	M-ZZ41 [J] 地球科学の科学史・科学哲学・科学技術社会論				M-GI31 [J] 情報地球惑星科学とデータ活用	▶S-CG55 [J] 海洋底地球科学			
CH-B	S-VC31 [J] 火山防災の基礎と応用	S-VC35 [J] 火山の熱水系				S-VC33 [J] 火山噴火のメカニズム	◀S-VC32 [J] 活動的火山▶				◀S-VC32 [J] 活動的火山	▶S-VC34 [J] 火山・火成活動および長期予測			
301A	G-01 [J] 地球惑星科学のアウトリーチ・実践と理論	G-04 [J] 小・中・高等学校、大学の地球惑星科学教育				B-BG02 [J] 岩石生命相互作用とその応用	B-PT03 [E] バイオミネラライゼーションと環境プロセス				▶S-GC37 [E] Volatiles in the Earth - from Surface to Deep Mantle	S-CG38 [J] 固体地球化学・惑星化学	◀S-GC37 [E] Volatiles in the Earth - from Surface to Deep Mantle		
301B		S-SS07 [E] Environmental Seismology: from deep earth to surface process					B-BG01 [E] 地球惑星科学・生命圏・環境科学	M-GI25 [E] Holocene paleoenvironment, paleoclimate, and paleohazards in the Pacific Islands			B-CG07 [J] 微化石生物学の最前線	M-IS08 [E] アストロバイオロジー			
302	S-EM16 [J] 地磁気・古地磁気・岩石磁気・環境磁気	M-IS18 [J] 惑星火山学				P-EM11 [E] Frontiers in solar physics	P-EM16 [J] 太陽圏・惑星間空間				▶P-EM10 [E] Space Weather and Space Climate				
303		▶P-EM12 [E] Coupling Processes in the Atmosphere-Ionosphere System				◀P-EM12 [E] Coupling Processes in the Atmosphere-Ionosphere System					P-EM17 [J] 宇宙プラズマ科学	M-GI30 [J] 計算科学が拓く宇宙惑星地球科学			
304	P-PS04 [E] Mercury Science and Exploration	S-CG59 [J] 沈み込み帯へのインフラ：海洋プレートの進化と不均質				A-HW24 [E] Human- and Climate-induced variability in water cycle and (sub)surface water resources	A-CG45 [E] Asia-Pacific field campaign strategies for changing Asian monsoon precipitation	S-MP25 [E] Oceanic and Continental Subduction Processes			P-PS09 [E] 火星と火星衛星	▶P-PS05 [E] Recent advances in the science of Venus			
POSTERS-ONLY	H-CG18 [E] 【PO】景観評価とレクリエーションの国際比較	M-ZZ45 [J] 【PO】ジオパークとサステナビリティ(ポスター)	O-11 [J] 【PO】高校生ポスター発表								A-HW31 [J] 【PO】都市域の水環境と地質	A-HW30 [J] 【PO】Long Population Data to Better Understand Current and Future Risk Challenges and Opportunities	S-MP27 [J] 【PO】Evolution of the early continents and the oceans understood by multi-geological proxies	M-IS23 [J] 【PO】非破壊分析による環境復元の展開	
											M-TT36 [J] 【PO】雪氷圏地質学・地震動の解析を通じた雪氷圏における変動の理解				
会場	AM1	AM2	PM1	PM2	PM3	AM1	AM2	PM1	PM2	PM3	AM1	AM2	PM1	PM2	PM3
	5月25日(日)					5月26日(月)					5月27日(火)				

5月28日(水)					5月29日(木)					5月30日(金)					会場
AM1 9:00-10:30	AM2 10:45-12:15	PM1 13:45-15:15	PM2 15:30-17:00	PM3 17:15-19:15	AM1 9:00-10:30	AM2 10:45-12:15	PM1 13:45-15:15	PM2 15:30-17:00	PM3 17:15-19:15	AM1 9:00-10:30	AM2 10:45-12:15	PM1 13:45-15:15	PM2 15:30-17:00	PM3 17:15-19:15	
U-05 [E] 気候変動と再生可能エネルギー利用の課題		U-02 [E] 人新世・第四紀の気候および水循環		【現地ポスター】 U-02 U-05 P-EM14 P-EM13 P-CG19 P-CG21 A-A505 A-A508 A-OS13 A-HW28 P-CG19 A-C332 A-C333	U-12 [J] CO環境の生命惑星化学 人間圏: 能登半島豪雨災害の統合科学		U-11 [J] 連鎖複合災害に対峙する人間圏: 能登半島豪雨災害の統合科学		【現地ポスター】 U-11 U-12 L-03 P-PS02 P-PS07 P-EM15 P-CG20 A-OS15	U-01 [E] Great Debate: Geohazards, societal risks and the development of resilience		U-04 [E] Geospatial Applications for Societal Benefits		【現地ポスター】 U-04 P-PS01 P-PS08 P-AE18 A-A501 A-A507	
H-TT16 [J] 環境トレーサビリティ手法の開発と適用			H-CG19 [E] Microplastics & Micro pollutants in the Environment - The 31st		A-HW27 [E] 流域圏生態系における生物多様性・栄養循環・物質輸送					A-HW30 [J] 同位体水文学2025		A-TT35 [E] Machine Learning Techniques in Weather, Climate, Ocean, Hydrology and Disease Predictions			
A-CG53 [J] 沿岸海洋生態系ー1. 水循環と陸海相互作用		A-CG51 [J] 沿岸海洋生態系-2. サンゴ礁・藻場・マングローブ													
A-C333 [J] アイスコアと古環境モデリング		A-CC32 [J] 雪氷学		A-CG38 A-CG43 A-CG44 A-CG51 A-CG53 H-GG01 H-TT16 H-CG19 S-GD01 S-SS12											
A-CG44 [E] 静止軌道衛星による陸面観測		A-AS05 [E] 高性能計算が拓く気象・気候・環境科学			M-G127 [E] Data-driven approaches for weather and hydrological predictions		M-IS19 [J] 大気電気学: 大気電気分野の物理現象解明から防災への応用まで					A-AS04 [E] 大気の鉛直運動を基礎とした地球環境学の新展開	A-AS01 [E] 気象の予測可能性から制御可能性へ		
A-AS08 [E] 潤潤大気の詳細な現象		A-CG43 [E] Multi-scale ocean-atmosphere interaction in the tropics													
A-CG38 [E] Climate Variability and Predictability on Subseasonal to Centennial Timescales		A-OS13 [E] Exploring Variability and Changes in Ocean Biogeochemical Cycles													
A-HW28 [E] 水循環・水環境			A-HW29 [E] Climate, Rivers and Floods: Exploring Hydro-Geomorphological Interactions												
M-IS24 [J] 歴史学×地球惑星科学		►S-CG61 [J] 変動帯ダイナミクス													
M-TT39 [J] インフラサウンド及び関連波動が繋ぐ多圏融合地球物理学の新描像		S-VC36 [J] 海域火山													
M-SB3 [E] Wetland ecosystems under pressure: impacts on the environment and social activities	S-CG56 [J] 地殻流体と地殻変動	►S-IT20 [E] 地球深部科学													
S-GD01 [E] Geotectonic Advances in Crustal Dynamics and Environmental Change for Taiwan and Neighboring Regions		S-CG50 [E] Earthquakes, Tsunamis, Seismotectonics, and Hazard Potential of the Ryukyu Trench and Okinawa Trough													
S-MP29 [J] 鉱物の物理化学		S-CG53 [J] 岩石・鉱物・資源													
◀S-EM15 [E] Electric, magnetic and electromagnetic survey technologies and scientific achievements		M-AG32 [E] Renewable Energy													
◀S-CG45 [E] Science of slow-to-fast earthquakes															
◀S-CG55 [J] 海洋底地球科学															
S-VC30 [E] International Volcanology		►S-SS12 [J] 地震活動とその物理													
B-CG06 [J] 地球史解説: 冥王代から現代まで															
P-CG21 [J] 宇宙における物質の形成と進化	◀P-EM10 [E] Space Weather and Space Climate	►A-CG41 [E] 衛星による地球環境観測													
P-EM13 [E] Dynamics of the Inner Magnetospheric System															
P-EM14 [E] 太陽地球系結合過程の研究基盤形成		M-TT38 [J] 極端現象のマルチセンシング													
◀P-PS05 [E] Recent advances in the science of Venus		P-CG19 [E] 惑星大気圏・電磁圏													
H-GG01 [E] [PO] Geosciences at the intersection between disasters and agriculture		M-SS13 [J] [PO] 地震予知・予測	M-SS19 [E] [PO] Geomaterials in cultural heritage: weathering, investigation techniques, and conservation												
AM1	AM2	PM1	PM2	PM3	AM1	AM2	PM1	PM2	PM3	AM1	AM2	PM1	PM2	PM3	
5月28日(水)					5月29日(木)					5月30日(金)					会場

第26期日本学術会議の動向

日本学術会議地球惑星科学委員会委員長 佐竹 健治

日本学術会議法案について

日本学術会議では、第25期(2020～2023年)に「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」を公表し、ナショナルアカデミーとして組織が充たすべき5要件(①学術的に国を代表する機関としての地位、②そのための公的資格の付与、③国家財政支出による安定した財政基盤、④活動面での政府からの独立、⑤会員選考における自主性・独立性)を示し、改革に向けて積極的な姿勢を示してきました。いっぽう、政府(内閣府)は、有識者懇談会での議論などに基づき、日本学術会議を特殊法人とする「日本学術会議法案」を2025年3月7日に閣議決定し、今国会に提出しました。日本学術会議では、この法案では上記5要件が完全に保証されていないと判断し、4月15～16日に開催された総会において、法案の修正を求めるという決議と、声明「次世代につなぐ日本学術会議の継続と発展に向けて～政府による日本学術会議法案の国会提出にあたって」を可決しました。

未来の学術構想の追加公募について

日本学術会議では2023年に公表した提言「未来の学術振興構想」の改訂を行う予定で、(I)新たな「学術の中長期研究戦略」の提案、(II)2023年版掲載の「学術の中長期研究戦略」(各大型計画)の改訂を、公募中です(意向表明〆切8月1日、応募〆切10月1日)。地球惑星科学分野から新たに提案される課題(I)については、提案のブラッシュアップを目的として、地球惑星科学委員会等でヒアリングと助言を8月後半に行うことを検討しております。提案予定の方は地球・惑星圏分科会の倉本委員長(keikei_at_ep.sci.hokudai.ac.jp)までご一報ください。

JpGU ユニオンセッション

2025年5月26日(月)午後、ユニオンセッション「地球惑星科学の進むべき道12:地球惑星科学分野の将来構想」を開催します。このセッションでは、上記の

未来の学術振興構想や、JpGUと日本学術会議地球惑星科学委員会が作成して2020年に公表した「地球惑星科学分野の科学・夢ロードマップ2020」の改訂に向けた議論を行う予定です。

学術フォーラム

2025年7月12日(土)午後に日本学術会議学術フォーラム「急激に変わりゆく地球環境と国際情勢:地球惑星科学の国際連携・国際協調」をハイブリッド形式で開催します。日本学術会議は42の国際学術団体に加盟し、分担金を負担していますが、うち13団体は地球惑星科学関係です。これらの団体が、変わりゆく地球環境や国際情勢にどう対応しているのか、広く知って頂き、そして今後の取り組みについて議論するためのフォーラムを企画しました。詳細は日本学術会議のホームページをご覧ください。

とめ 株式会社とめ研究所

私たちが目指す社会

私たちが目指す社会、それは機械をより賢くし、"人と機械が共生する社会"をつくり、"生活が楽しくなる"こと。この思いに基づき、経営ビジョンを「人と機械の共生でもっと生活を楽しむ」にしています。

当社のエンジニアは皆、経営ビジョンに繋がる面白い技術的課題に向き合い、思う存分能力を発揮しています。そのような会社であり続けたい思いから、経営理念を「面白い事をして社会や生活を変える」にしています。

経営ビジョンの実現には幅広い分野での貢献が必要です。事業ミッション「お客様の研究開発へ貢献する“ソフトウェア研究開発受託会社”」のもと、日本全国の多くのお客様に貢献しています。



- ・得意分野は最先端ソフトウェアの研究開発。人工知能、データサイエンス等。
- ・高度な技術集団。エンジニアは5割が博士号取得者、8割が博士課程出身。
- ・日本全国の研究開発を受託。大手企業研究所等のパートナーとして実績多数。
- ・博士課程新卒、既卒者積極採用中。選考では研究で培った能力を重視。

人と機械の共生でもっと生活を楽しむ
とめ 株式会社とめ研究所
URL : <https://www.tome.jp>

X線CTスキャンが拓く古脊椎動物学の新時代

—福井から発信する新しい恐竜学

福井県立大学 恐竜学部 河部 壮一郎

X線CTスキャン技術は、古脊椎動物学において不可欠なツールとなりつつある。特に化石の内部構造を非破壊的に観察できる点で、頭骨内部の脳などの神経系や感覚器官の研究においてその効果が発揮されてきている。本稿では、恐竜などの化石標本のX線CTスキャンを用いた研究例を紹介しつつ、これらの技術が古脊椎動物学にどのような新たな知見をもたらしているかを解説する。また、2025年に開設された福井県立大学恐竜学部の教育・研究におけるX線CTスキャンの活用とその可能性についても触れ、デジタル技術を基盤とした新たな恐竜学の将来を展望する。

頭 骨内部から得られる情報

恐竜をはじめとした脊椎動物の頭骨の内部には、鼻や耳に関わる器官のほか、脳やそこから伸びる脳神経、血管などがかつて収まっていた空洞が広がっている。生体では各種器官が収まっているが、動物が死んでしまうとこういった器官は腐敗するため、直接化石として残ることは少ない。しかし、このような空洞は元々存在していた器官の形態をある程度反映しているため（図1(a)）、化石標本からでも脳や神経、血管の情報を推定することができる。これは、頭骨内の空洞の型（エンドキャスト）を作り、それを観察することで可能になる。

ただし、特に脳や内耳などの器官が収まっている空洞は頭骨の内部の方に位置しており、外観からはその詳細を把握できないし、エンドキャストも容易に作ることができない。頭骨標本を切断して直接内部を観察する方法もあるが、貴重な恐竜の頭骨を損傷させてしまうため、非破壊で内部構造を明らかにすることのできるX線CTスキャンが極めて有用となる。

脳の収まっていた空洞のエンドキャストをデジタル的に作ることができれば、そのエンドキャストから本来の脳のおおよその大きさや形状を見出すことができる。脳の形態がわかれば、その動物の行動様式や生態が推定可能である。例えば、嗅覚情報の処理に関与する脳前方の嗅球は、嗅覚能力の指標となる。実際、嗅覚が発達している動物では嗅球が顕著に発達しており、例えばイヌの嗅球は大きいのにに対し、ヒトでは小さく外観から観察することはできない。このように、絶滅した恐竜の嗅球サイズを測定することで、その嗅覚能力の程度を評価できる。

恐 竜の脳と内耳の解析

頭骨化石の内部構造解析は、恐竜の生態や神経系に関する多くの知見をもたらしており、2000年代初頭からX線CTスキャンは恐竜の神経学的研究に本格的に利用されるようになった。

象徴的な例として、2000年にティラノサウルスの頭骨を対象に行われた研究が挙げられる（Brochu, 2000）。この研究では、シカゴのフィールド自然史博物館に所蔵される通称「スー」と呼ばれる標本を用い、脳の形態や嗅球の発達状態から、ティラノサウルスの嗅覚能力の高さが明らかにされた（図1(b)）。これ以降、恐竜の脳研究はX線CTスキャンを使うことが主流となっており、例えば恐竜から鳥類への進化過程において、嗅覚よりも視覚が優位に進化していったことなどが明らかにされてきている。

一方で最近までは、日本から見つかった恐竜頭骨を用いたX線CTスキャンによる解析はほとんど行われていなかった。それは保存状態の良い恐竜化石が日本からはなかなか発掘されていなかったということに起因する。しかし、2007年に福井県北東部に位置する勝山市の山中から獣脚類恐竜フクイベナートル (*Fukuivenator paradoxus*) が発見され、状況は一変した（図2(a)）。この標本は、全身の約7割の骨が確認でき、極めて保存状態のよいものだった。ちなみにフクイベナートルは、全長2 mほどの1億2000万年前の恐竜で、テリジノサウルス類に属すると考えられ、生きていた頃には体は羽毛で覆われていた。

フクイベナートルは、頭部の骨も多数保存されていたことから、X線CTスキャンによる脳・内耳の形態解析を行うことができた（Hattori *et al.*, 2021; 図2(b)）。その結果、非常に発達した嗅球が確認され、嗅覚能力の高さが示唆された。また、内耳の

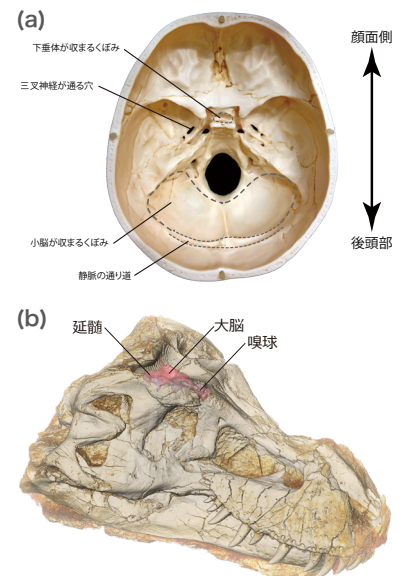


図1 (a) ヒトの頭蓋腔の様子。(b) ティラノサウルス頭骨のCTスキャンデータから作成した頭骨と脳エンドキャストのCGモデル (MorphoSource: 10.17602/M2/M366912で公開されているデータを元に作図)

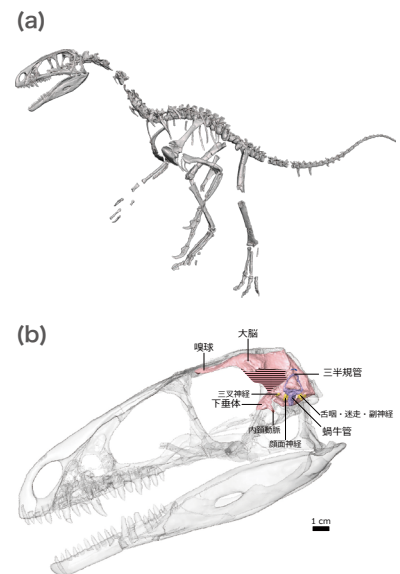


図2 (a) フクイベナートルの全身骨格3Dモデル。(b) フクイベナートルの頭骨と脳・内耳エンドキャスト3Dモデル (Hattori *et al.*, 2021)。

蝸牛管の長さからは、広い音域を聞くことができていたことがわかった。さらに、三半規管が発達していることから、頭部や頸部の制御能力が高かったことが示めされた。これらの知見から、フクイペナートルが鋭敏な嗅覚と聴力を駆使し、すばしっこく昆虫などを追って、大きな河川沿いの密生した植生の中を俊敏に走行していたと考えられるようになった。

化石のデジタルクリーニング

化石を研究するにはクリーニング作業は欠かせない。当然、化石の形態的特徴を見出すにはその全体像がわかるように堆積物中から、化石をきれいに取り出すことは必須である。しかし、化石の保存状態などにより完全なクリーニングが行えない状況も多々ある。このような場合においても、X線CTスキャンは有効であることを以下に述べる。

フクイペナートルと同じく福井県勝山市からは、原始的な鳥類であるフクイペトリクス (*Fukuipteryx prima*) の化石が見つかった。しかしこの化石は、エアチセルなどによる一般的なクリーニング作業だけでは個々の骨化石を取り出すことができなかった。全身の骨の全体像がある程度見えるところまでは岩石を削ることができたものの、化石と岩石との境界の区別がつきにくい領域が増えていき、それぞれの骨を岩石中から取り出すことができなかったのである(図3(a))。つまり、骨の本来の三次元的な形が綺麗に保存されているにも関わらず、岩石に埋まっているところの形態情報を得られない状態であった。

そこでX線CTスキャンを行い、デジタル上でクリーニング作業を行うことにした。これは、断層画像に写る岩石と骨化石との境界を一つ一つ定義していく、骨の部分を画像上で抜き出していくというものだ。その結果、それぞれの骨を三次元的に可視化することができ、形態情報を余すことなく得ることができるようになった。これによって、詳細な形態学的・解剖学的解析が可能となり、系統解析によって、フクイペトリクスは、アーケオプトリクス(始祖鳥)に次ぐ基盤的な鳥類であることが判明した。

さらに、デジタル的に岩石から分離できた骨のデータを3Dプリンタで出力することで、全長およそ23 cmの全身骨格を復元することもできた(図3(b))。このように、実物の骨格化石は岩石の中に埋まっているにもかかわらず、X線CTスキャンをはじめとするデジタル技術を用いることで、物理的にその骨格を実際に手に取ることもできるのである。

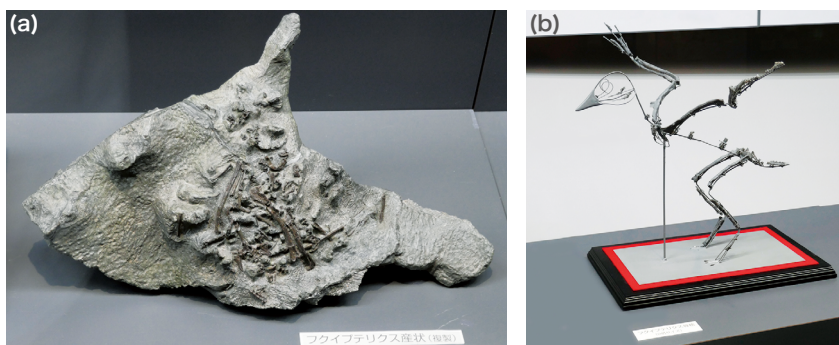


図3 (a) フクイペトリクスの産状 (b) 3D プリントを使って作製したフクイペトリクスの骨格模型

「恐竜学部」における展望と社会連携

X線CTスキャナをはじめとする非破壊解析技術の進展により、従来外部からの観察だけでは得られなかった詳細な恐竜の生態情報が明らかになっている。かつては日本で恐竜化石が見つかることは稀だと言われていたが、今日では福井県を中心に重要な恐竜化石が数多く発見されている。このように多くの化石標本が見つかるようになってきたことに加え、大型標本でも撮影することのできるX線CTスキャナの性能向上などにより、日本の恐竜研究は急速に進展しており、今後さらなる発見と新知見の蓄積が期待される。

福井県は30年以上に渡り恐竜化石の発掘調査を行ってきたおり、上述の通り恐竜をはじめとした多くの化石資料が見つまっている。一方で、X線CTスキャンを用いた化石研究にも注力してきており、近年の福井県での恐竜研究は、「発掘」と「X線CTスキャン」は切り離せないものとなっている。このような状況の中、2025年4月に福井県立大学に、日本初の「恐竜学部」を冠する学部として恐竜学部が開設された。恐竜学部は、恐竜を中心とした古生物や地球科学に関する専門教育・研究の拠点となることを目指しているが、本学部での教育・研究においても「発掘」と「X線CTスキャン」は中心に位置づけられている。X線CTスキャンを活用した実践的な研究活動は教育カリキュラムに組み込まれており、学生が積極的に機器を利用して研究を行っていくことのできる環境を整えている。このような教育環境の充実が、今後の古脊椎動物学の発展のためにも重要となっていく

だろう

また、教育や研究活動などによって得られたCTデータは3Dプリント模型やVR/ARコンテンツとして活用し、博物館展示や様々な教育現場など地域社会との連携にも用いていくことができると期待している。このように、X線CTスキャン技術の教育的活用により、学術成果の社会発信にとどまらず、科学教育イベントなどの普及活動も視野に入れた展開が可能になっていく。また将来的には、国内外の研究機関との連携によるデータ共有、研究リソースのオープン化などを通じて、CTスキャンを軸とした「福井発」恐竜学のさらなる進展が期待される。

このようにX線CTスキャンは、古脊椎動物学に新たな視点をもたらしてきている。非破壊で化石の内部構造を解析することのできるこの技術は、古脊椎動物の形態をより詳細に把握し、その理解を深めるために必須のものとなってきている。福井県立大学恐竜学部では、このようなデジタル技術を教育・研究の基盤として活用し、次世代の人材育成と地域・国際社会への貢献を行っていく拠点としての展開を担っていく必要があるだろう。

—参考文献—

- Brochu, A. (2000) *J. Vertebr. Paleontol.*, **20**(1), 1-6.
Hattori, S. et al. (2021) *Mem. Fukui Pref. Dinosaur Mus.*, **20**, 1-82.

■一般向けの関連書籍

河部 壮一郎 (2024) *デジタル時代の恐竜学*, 集英社インターナショナル.



著者紹介 河部 壮一郎 Soichiro Kawabe

福井県立大学 恐竜学部 恐竜・地質学科 教授

専門分野: 古生物学, 古脊椎動物の古神経学, 比較解剖学

略歴: 東京大学大学院理学系研究科博士課程修了, 岐阜県博物館学芸員等を経て現職.

深海問答

川口慎介 著
エクスナレッジ
2024年8月, 328p.
価格 2,200円 (本体価格)
ISBN 978-4767833187



国立極地研究所／総合研究大学院大学 藤井 昌和

「深海? 潜る余地なんて、まだまだ無限。」——そう囁くような不思議な引力を放つのが、川口慎介氏の『深海問答』だ。2024年8月17日に放たれたこの一冊は、海洋研究開発機構 (JAMSTEC) の主任研究員である川口氏が、「現代を生きる人々の『海』への常識を揺さぶる」ために書き下ろした、いわば地球科学の教養書である。1982年、兵庫県宝塚市に生まれた著者は、海洋生物を「気持ち悪い」と感じ、不便な調査生活に時折うんざりしながらも、それでもなお海へと足を運び続け、乗船日数は延べ700日を超える。その理由が、この本には克明に記されている。

本書の肝は何と言っても、3部構成・11章にちりばめられた100を超える問いの数々だ。「海の水は好き勝手に動いているのか?」「海底と陸ではどちらの岩石が古いのか?」「海には何がどれだけ溶けているのか?」といった、やっとなの思いで人類が観測して得た素朴な疑問から、「資源開発で海に何が起ころのか?」「海は気候工学の舞台となるのか?」といった社会的関心に踏み込む問いまで幅広く取り上げられる。独特のユーモアに加え、要所要所で挿し込ま

れるツートーンカラーのイラストが、学術書にありがちな「気難しさ」をバツサリ切り捨てている。海洋観測現場の最前線や夏島町の分析ラボ、日本学術会議の会議室まで縦横無尽に駆け回る川口氏ならではの冒険活劇が詰まっているのも魅力だ。努めて定量的な表現を多用しながら、くすっと笑える小ネタや、大学のあり方・研究者の姿への鋭い眼差しが織り交ぜられ、実直な著者の科学愛が行間から立ち上ってくる。

私も駆け出しの頃はとにかく図書館や教員の本棚を貪欲に漁っていたが、振り返れば、それこそが自分の知識の裾野を広げる一因だった気がする。専門的な論文を追いかけるだけでは得られない俯瞰的な視点を手にするためにも、本書のように海の知識を総覧できる一冊は貴重だ。理学的な興味と人間社会を強く結びつけた科学が期待される今の時代、こういった書物こそ地球科学者を志す若者にとって強い味方になるだろう。気の長い探求と、思いもよらぬ発見の重要性も垣間見ることができ、かつて海の至る所を調査し尽くそうとする空気が業界に残っていた21世紀初頭から一転、今では環境に配慮しながら研究船を更新・

新造するさじ加減を見極め、減少する外港航海シブタイムに頭を悩ませる厳しい状況下にある。そこへ中堅のリカレント教育やリスクリングの機会として海を活用するという斬新なアイデアは、大いに刺激的だ。潜水船の造船や氷海航行の技術継承、さらには多様な海洋観測手法を運用できる人材教育へとつなげられる可能性がある。こうした取り組みは、海洋立国として身の回りの海だけでなく、地球全体の海洋に目を配れる「揺るぎない基盤を持つ国」への道筋となるのかもしれない。改めて海と地球のフィールドサイエンスの価値を見つめ直すきっかけになったのは言うまでもない。

本書は、深海に漠然としたロマンを感じる人にとって絶好の糸口となり、脱炭素社会や大規模事業の実装に携わる方には基礎知識の土台を提供し、研究や競争の酸いも甘いも知り尽くすシニア科学者にはスパイスとなる——そう断言できる深海からの挑戦状である。読み進めるほどに、自分がいかに海洋について知らなかったかを思い知らされ、「もっと知りたい!」という知的好奇心がかき立てられるのは必至。裾野分野をこっそり学び直したい大人にも最適な一冊だ。深海という圧倒的なスケールに身を投じれば、新たな問いとの出会いが次々に押し寄せるだろう。きっと、あなたの固定観念と深海像をアップデートし、これからの世界をしなやかに生きるガイドとなるに違いない。

海とともに生きる現代人に今こそ身につけて欲しい地球科学の教養

深海問答

著者 川口慎介 (かわぐち・しんすけ)

海とはどんな場所か?
海では何が起きているのか?
海と人類の未来とは?
気鋭の海洋研究者が謎だらけの
海の正体から生命の起源、
海底資源、気候工学まで、
地球規模のテーマを探究

四六判 328頁 定価: 2,420円 (本体2,200円+税10%) ISBN: 978-4-7678-3318-7

株式会社エクスナレッジ 〒106-0032 東京都港区六本木7-2-26
TEL: 03-3403-1346 FAX: 03-3403-1829 <https://www.xknowledge.co.jp/>

X-Knowledge



貴社の新製品・最新情報を JGL に掲載しませんか？

JGL では、地球惑星科学コミュニティへ新製品や最新情報等をアピールしたいとお考えの広告主様を広く募集しております。本誌の読者層は、地球惑星科学に関連した大学や研究機関の研究者・教育者・学生等ですので、そうした読者を対象とした PR に最適です。発行は年4回、学会 web で PDF 公開し一般の方にもご覧いただけます。広告料は格安で、広告原稿の作成も編集部でご相談にのります。どうぞお気軽にお問い合わせ下さい。詳細は、以下の URL をご参照下さい。

<https://www.jpгу.org/jgl-advertise/>

【お問い合わせ】

JGL 広告担当 宮本英昭
(東京大学 大学院工学系研究科)
Tel 03-5841-7027
hm@sys.t.u-tokyo.ac.jp

【お申し込み】

公益社団法人日本地球惑星科学連合 事務局
〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16
学会センタービル 4 階
Tel 03-6914-2080
Fax 03-6914-2088
office@jpгу.org

個人会員登録のお願い

このニュースレターは、個人会員登録された方に送付します※。登録されていない方は、<https://www.jpгу.org/> にてぜひ個人会員登録をお願いします。どなたでも登録できます。すでに登録されている方も、連絡先住所等の確認をお願いします。

(※) 現在一時的に送付停止中です。PDF でご覧ください。
<https://www.jpгу.org/publications/jgl/>

JpGU2025

2025 年 5 月 25 日 (日) ~ 30 日 (金)

※一部プログラムは 24 日 (土) に開催します



現地会場：幕張メッセ国際会議場全館、国際展示場 7・8 ホール
研究発表については、全て現地及びオンラインどちらでも聴講可能です

緊急パブリックセッション開催決定！！

0-12 2025 年ミャンマー中部の地震と被害

2025 年 3 月 28 日にミャンマー中部のマンダレー付近を震源として地震が発生したことに伴い、緊急セッションを開催します。

口頭講演：5/24(土) 13:45-15:15 ※オンラインのみ
ポスター講演：5/25(日) 17:15-19:15 ※現地のみ
口頭講演は会期前日です。ご注意ください。

パブリックセッションにつき
ご興味のある方はどなたでも
無料で聴講いただけます。
※下記 URL または
QR より要参加登録



https://www.jpгу.org/meeting_j2025/for_public.php

スポンサープログラムのご紹介

JpGU では 2024 年度よりスポンサープログラムをご用意しております。
ご出資額に応じて、大会中のご出展やデジタルサイネージへの広告掲示などの他、JGL への広告出稿など年間を通しての特典もご用意しております。



大会の団体展示へのご出展をご検討の場合、
スポンサープログラムにお申込みいただくと
出展料と同額で、出展に加えてスポンサー
特典も受けられます！

詳細・お申込み <https://www.jpгу.org/about-sponsor-program/>



JGL
Japan Geoscience Letters

日本地球惑星科学連合ニュースレター

日本地球惑星科学連合ニュースレター Vol.21, No.2

発行日：2025 年 5 月 1 日

発行所：公益社団法人日本地球惑星科学連合
〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16
学会センタービル 4 階
Tel 03-6914-2080 Fax 03-6914-2088
Email office@jpгу.org
URL <https://www.jpгу.org/>

編集者：広報普及委員会
編集責任 東宮 昭彦
編集幹事 橘 省吾
デザイン：(株)スタジオエル
<https://www.studio-net.co.jp/>
印刷所：株式会社 AC サポート

